

ルーテル・ブックレット①

統一協会の
コントロールからの解放
—救出の手引き—

齋藤 幸二 共著
平岡 正幸

ルーテル・ブックレット・プレス

統一協会のコントロールからの解放

救出の手引き

ルーテル・ブックレット・プレス

ルーテル・ブックレット①

統一協会の
コントロールからの解放
—救出の手引き—

齋藤 幸二 共著
平岡 正幸

定価 500円 (本体486円)

ISBN4-947672-01-3 P500E

ルーテルブックレット①

統一協会の

コントロールからの解放

救出の手引き

この本の主な内容

統一協会に家族が入って悩んでおられる方へ

I 統一協会の何が問題なのか。

II 救出するにはどうすればよいのか。

マインド・コントロールの概要と

コントロールされた心の解放

III 救出された方の体験。

このブックレットは、これら救出のために、すぐに必要な基礎知識を提供しています。

目次

はじめに

四頁

I なぜ救出しなくてはならないのか

II 統一協会の問題点 II

日本福音ルーテル焼津教会牧師 斎藤幸二

一 統一協会は反社会的な悪徳商法をする 六頁

一〇統一協会員は生涯だまされ続ける 一九頁

二 「脅迫」行為も神のため 七頁

一一呪いの教えに苦しめられる 二二頁

三 善悪の誤った判断力に導かれる 八頁

一二親にしか救えない 二四頁

四 他人の意志に支配されるロボットに 一〇頁

II 救出するには II 家族が統一協会に入ってしまった。どうすればいいのか II

五 統一協会は思想・信教の自由を侵している 一一頁

一 まず電話から 二七頁

六 統一協会は家庭を破壊する 一三頁

二 家族側の問題 二九頁

七 本人の人生を破壊させる 一三頁

三 家族の再出発(やめさせるためか、家族がもう一度出直すためか) 三〇頁

八 奴隷の結婚 II 合同結婚式 II 一六頁

四 説得 II 心のドラマ II 三二頁

九 「通教」でも安心できない 一八頁

五 愛の綱引き、情の綱引き 三四頁

一〇活動歴の長さと説得 四四頁

六 マインド・コントロールについて 三六頁

一一脱会後の家族と注意事項 四四頁

七 コントロールからの解放 三九頁

一二最後に、ご家族にお願い 四五頁

八 説得前に必要な事柄 三九頁

III 脱会者の手記

九 説得時期と場所 四一頁

Mさんの手記より 四七頁

勸誘から入信後までの過程(チャート) 四二頁

S子さんの手記より 五八頁

附 統一協会についての基本的姿勢 六三頁

日本福音ルーテル教会 信仰と職制委員会

日本福音ルーテル教会の

原理運動被害者救済問合せ先

はじめに

一九八六、七年の靈感商法報道、そして九二年から九三年にかけて過熱した合同結婚式をめぐるマスコミ騒動、これらの一連の流れの中で、統一協会の、これまで隠されていた部分にまで光が照らされ、その実態が世間に明らかになってきました。

またこの団体からわが子を取り戻そうとする親たちの必死の活動の様子も報道されました。

しかし、なお一方ではこうした救出の活動について「なぜ親がそこまでして止めさせようとするのか」、「どうしてそこまでしなればならないのか」、「信仰は自由ではないか」といった疑念の声もあります。またこうした親の救出に牧師がかかわることについて統一協会側は「強制改宗だ」と非難しており、事情を知らない人々はこうした救出、説得活動を宗派間の争いのようにとらえています。

私たちはセンセーショナルなとらえかたや、表面的な見方だけでなく、一体なにがそのような騒ぎの根底里たいと願っていた人々なのです。

ですから、救出、説得は、そのような彼らのもともとの動機や真情をくみ取り、理解することが大切です。その上で、統一協会の活動が思想、信教の自由から逸脱した反社会的行為であることを、筋を通して訴えてゆくののです。

このブックレットが、問題を抱えたご家族、ご両親の役に立てば幸いに思います。

にあるのかを、ここでしっかりとらえる必要があると思います。

すでに統一協会に関しては数多くの本が出版され、その実態や、活動について、さらにその活動を生み出している教理や教えについては十分な知識がゆきわたっていると思います。ですから、それらについての情報はこのブックレットでは多くを扱いません。

統一協会問題の本質はどこにあるのか、なぜ親が子供の救出活動に取り組もうとするのかについて、またその際、どのような心構えをもって取り組むべきなのか、またどうして牧師や他者の援助が必要となるのかについて、理解を深めたいと思います。

救出、説得の際には、親が何を問題の本質としてとらえ、どのように語ってゆくかがとても重要になるからです。

統一協会内部で、毎日のように経済活動の苦役を負いつづけ、お金のために命をすりへらしている若者たちの内の多くは、もともとは真面目に人生の意味を探求しようとしていたり、他者のために役立つ人生を送

ね！」とか「ぶつ殺してやる」と言った脅迫電話を受けたり、カッター・ナイフの刃の入った脅迫状を送り付けられた人もいます。

「私は文鮮明教祖の命令なら、人殺しもしたでしょう。」

これは私が説得した二二才の女性の口から出た言葉です。

こうしたことを行う人々は、根はごく普通のやさしい「まじめな青年」ですが、統一協会での教育の結果、凶暴で嘘つきと見える状態にされてしまうのです。

統一協会にとって、自分達の反社会的活動に反対する者たちは、たとえ親であっても、マスコミであっても、被害救済にあたる弁護士であっても、神様に逆らう「サタンⅡ悪魔」なのです。それらの人々を脅迫してでも、反対活動を止めさせることが「善」と考えているのです。

こうした考え方は、さらにエスカレートすると、最後は、先に女の子が口にしたような、人殺しも辞さない時、その目的も変わるので、従って善と悪の基準も変わるようになるのである（原理講論一一九頁）とあります。

一見、もつともらしく思える教えですが、しかし、それでは何が新しい善の基準なのか、ということを経理講論は何も示してはけません。つまり「善悪の基準なんて無いんだよ」と思わせることがここでの教えの目的です。

原理講論は、聖書にあるような「十戒」や「山上の垂訓（キリスト者に対する戒め）」のように、自身自身を律する倫理の具体的な規範をもっています。統一協会の神は人間にたいしてすべての人が認める公正と正義を求める神ではなく、どんな手段、方法であれ、文鮮明教祖を中心とする地上天国の建設を求める神です。そしてこの目的にかなうことならすべてが善である、と教えるのです。

ですから統一協会においては「善悪の基準」は、原理講論が教えるように、「時代や主権者や、思想の違い」において変わるだけでなく、統一協会自体にお

い、と言った考えにまで至りかねません。相手を脅迫し、危害を加えてまで「反対活動」をやめさせることは、その人に「善いことをしている」であり、「敵を愛すること!？」だ、という理屈です。

もちろん容易に証拠を残すような犯罪行為は、統一協会にとって不利になりますから、めったなことにはしないにしても、証拠にならないような電話、手紙による脅迫や執拗ないやがらせなどは、牧師だけでなく、統一協会の活動を批判するマスコミをはじめ、霊感商法の被害救済にかかわる弁護士、救出活動に携わっている人は必ず経験させられているのです。

三 善悪の誤った判断力に導かれる

統一協会員がこれまでのべたような反社会的行為を平気で行うようになるのは、原理の誤った教えによって善悪の判断力をマヒさせられるからです。

彼らの学んでいる「原理講論」を読むと、「時代と主権者が変わり、その理念が変わるようになれば、同でも、文鮮明教祖の都合や協会の都合によってめまぐるしく変わるので。

彼らは他人の嘘は許しませんが、その一方で自分の嘘は「神のため」の善なる嘘である、と正当化します。正体を偽って行う募金活動も、宗教なのに「サークルです」と嘘をつく勧誘も、神様と地上天国のためには「善」となるのです。

先にのべたような脅迫行為でさえ、統一協会員が行うならすべて「神のための善なる行為」とされるのです。

統一協会員と話をしている、一向に話がかみ合わないのは、彼らが互いの良心にもとづく正直さや真実さを無視し、統一協会に都合の良いことはすべて善、都合の悪いことはすべて悪と考えるように教育されているからです。

内部の者に対してはこのように社会悪の正当化をし、それを行わせていても、そのような自分勝手な論理は一般には通用するはずがありません。ですから、外部に対しては「統一協会としては経済活動はしてい

ない。もし行き過ぎがあったとしても、それは会員個人によるものだ」とタテマエだけを主張します。

この「善悪の相対化」の教えこそ、原理の教えのなかの最も危険な誤りだといえます。「目的が良ければ手段を問わない」と教えられた青年男女たちが、神様のためならどんな嘘も、どんな悪も罪の意識も感じないで平然と行うようになる、ということは考えてみただけでも恐ろしいことです。

「地上天国」、「理想世界」、「世界平和」という一見素晴らしいスローガンに幻惑され、その手段と方法を誤るときに、どんな恐ろしいことが生じるか、スターリンやヒトラーや日本帝国の歴史に学ぶならすぐ分かることでしょう。

四 他人の意志に支配されるロボットに

先に述べたように、統一協会の教えは善悪の区別をあいまいなものにします。本来宗教は良心を照らす光をあたえるはずなのに、「善悪の基準は絶対ではない」

と教えられた統一協会の会員は自分の良心にもとづく善悪の判断ができなくなりませぬ。

かといって、何が神の目的なのかは自分ではよく分りませぬから、それを知っている「メシヤ（文鮮明）により近い人」つまり「アベル」と呼ばれる上司に聞かなければなりません。

協会内部では、聖書にちなんで上下関係を「アベル」と「カイン」という呼び名で区別し、新入りの「カイン」は自分の直属の上司である「アベル」の命令に従うよう求められます。

「君達は罪深いので自分で判断すると間違いやすい。すべて、より神に近いアベルに聞くように」と教えられるのです。統一協会員は自分で判断することをやめ、「アベル」が「カラスは白い」と言えばカインも「白い」と思わなければいけないのです。

しかし、こうした「アベル」の指示は必ずしも軍隊における命令調であたえられるわけではありません。内部にいた人は、自分が命令に従うことを強制されていた、という感じをもっていますし、統一協会側も

「どんな活動であれ、一切は本人の意志によるものだ」と主張します。というのも、一度この「アベル・カイン」の教えを受け入れると、やわらかい物言いや、助言やアドバイス、といった口調で与えられる上司の言葉に「ノー」というこ

とは不信仰であり、神に背くことと同じになるからです。こうして自分で考えたり判断するのではなく、何事についてもアベルに報告、連絡、相談するように、という、いわゆる「報・連・相」ほうれんそう」のリモコン生活に入っていく

生活意識アンケート

- ① 現在の生活に満足していますか。(はい いいえ)
- ② 次の中で関心のあるものをあげてください。
健康・仕事・占い・旅行・政治・世界情勢
ボランティア・人間関係・宗教・芸術・死後の世界
運命・凶縁・人の生き方・恋愛・結婚・監禁・仏典
- ③ 一番大切なものは。
(地位・名譽・財産・友人・愛・家庭)
- ④ 社会の為に役立ちたいと思いませんか。(はい いいえ)
- ⑤ 世界に出て見たいと思いませんか。(はい いいえ)
- ⑥ 人生、社会の矛盾に悩んだことはありますか。(はい いいえ)
- ⑦ 人生、社会の根本問題を解決する真理があるとしたら、知りたいと思いませんか。(はい いいえ)
- ⑧ 自分の時間がありますか。(はい いいえ)
- ⑨ 死後の世界はあると思いませんか。(はい いいえ)
- ⑩ 手相や姓名判断を見てほしいと思いませんか。(はい いいえ)

五 統一協会は思想・信教の自由を侵している

統一協会は、自分達に反対する人々に対し、「信教の自由」の侵害であり、宗教迫害だ、と抗議します。しかし、個人の信教の自由を侵しているのは統一協会なのです。

というのも、統一協会はまず宗教団体という正体を隠して、路上でのアンケートや訪問を行います。そして、相手の興味や関心、心配事を聞き



出したうえで、「そういうことが学べるサークルに入らませぬか」とビデオ・センターに誘います。

そのビデオ・センターでの教育の中に神や聖書の話がでてきますが、その時でもまだ宗教団体であることが知らされませぬ。

つまり、誘われる本人は、自分の選択の意志によらないで、だまされて特定の宗教を押し付けられていることになりませぬ。

それはちよūd、**「これはジュースですよ」**と言われて、実は薬物を飲ませられるのと似ています。良く知らない人に、最初から**「これは薬です」**と言われてば絶対にすぐには飲まないでしょう。でも、お茶かジュースだと言われれば飲んでしまうかも知れません。覚醒剤のようにそれでしばらく元気が出れば、自分は救われた、と思ってしまうかも知れません。

宗教というものは、個人の価値観を根底から変化させる力をもっており、薬にもなれば毒にもなります。ですから**「宗教」**は慎重に選ぶ必要があります。その**「教え」**という薬を飲んだときに自分がどういふ生活、行動をするのかを知った上で、その教えを学びはじめなければなりません。

宗教団体は、布教する際、宗教であることをおおやけにし、また何を目指しどういふ活動をしているのかを明らかにしなければなりません。そして当人も承知

六 統一協会は家庭を破壊する

統一協会は、親子関係、夫婦関係を破壊します。協会に勧誘された初めの頃は、**「親を大事にしよう、親に尽くしましょう」**と教えられ、本人も**「良いことを学んだ」**と思い、親も礼儀正しくなったわが子を見て安心します。

しかしやがて、今の親は肉の親であつて、本当の親は真の御父母様である文鮮明夫妻である、と教えられます。自分を生み育ててくれた親はサタンの罪の血統を与えた親であり、自分がよくなるためには自分の両親を捨てても真の御父母様のほうに仕えなければならぬ、と考えるようになります。

しかし都合によつて親を利用することもあります。献身するときは親に対して**「働いて余つたお金は全部献金するから私をあてにしないで欲しい」**と言わせておきながら、合同結婚式のときには結婚資金を親に出してもらふように命じます。

の上で教えを聞いてゆくべきなのです。それを隠して**「サークルです」**と偽り、宗教教育のプログラムのレールに乗せてしまうことは、本人の宗教の選択の自由を無視することなのです。

また統一協会には思想の自由ありません。統一協会は宗教団体である、と主張しながら、入信した人を自動的に**「勝共連合」**という反共を目的とした組織の会員にします。統一協会が推す政党以外を支持することは許されず、人事によつて選挙の応援活動を命じられたり、政治家の秘書になることを命じられます。

このように、統一協会では、信教の自由も思想の自由もありません。私たちは統一協会こそこれらの自由を侵害している、と考えるのです。救出はこうした状態から、本人が抜け出して、もう一度自分の意志にもとづく選択をさせるように援助することであつて、統一協会が言うように強制改宗を行うことではありません。

また、夫婦にしても妻が入信した場合、夫には内緒で献金をしたり、展示会などの商品を購入したり、借金をさせられたりします。さらに、文鮮明教主の祝福をうけない夫婦の性的関係を不潔なものとして拒否することもあります。

本来、神への信仰は、子供が親をかえりみることに、夫婦が正常な関係を持つことと矛盾するものではないはずですが。しかし統一協会の教えは正常な親子、夫婦の関係を破壊してしまします。

七 本人の人生を破滅させる

協会員は搾取の対象

統一協会から自分の家族を救出する目的は、第一にはその反社会的行為からの引き離しですが、本人の精神的、身体的安全のためでもあります。

統一協会とその教祖文鮮明にとつて、協会員は**「金のなる木」**であり、徹底した搾取の対象です。

原理は、墮落人間が神に帰るためには、蕩滅(罪滅

ほし)をしなければならぬと教えます。そして聖書があたかもそのような人類の償いの歴史を記しているかのように教えます。

イエス・キリストの十字架も統一協会にとつては「失敗」であり、一般のキリスト教会が教えるような「罪のゆるし」ではありません。そしてその失敗を、今度は現代の自分達の労苦によつておぎない、神の目的である地上天国を建設しなければならぬと教えます。そのためには政治家をも動かす莫大なお金が必要であり、そのお金をつくつてメシアである文鮮明に送ることが統一協会の最大の責任なのです。

もちろん普通のキリスト教会のような献金だけではとても間に合いませんから、「献身」させてフルタイムで働くようにさせます。しかし「献身」といっても、純粹に宗教的な仕事にかかわる人は「教会長」のようなわずかな人であつて、殆どの人は「教会長」の経済活動に従事し、わずかな小遣い(二万数千円)と生活費(四〜五万)で日夜働くようになります。統一協会系の企業に配置させられた会員も、手当は

献身者と同じです。しかし経理上(表向き)は二〇万(三〇万円の給料、つまり実際に本人にかかる費用の三倍から五倍の給料が支給されたことになっていて(本人はそのことを知りません)、その差額は税金のかわらないお金(裏金)となつて統一協会に還元されてゆきます。

もちろん今までもつていた貯金やすべての財産は残さず統一協会に献げなければなりません。老後の保障は一切なく、社会保険も加入できません。健康保険証も会員どうしで貸し借りしています。

経済活動は統一協会の活動の一部分ではなく、大部分です。ですから統一協会にたいして通常の宗教団体のようなイメージを持つことは間違ひです。むしろ宗教を隠れみのにして収益事業を行っている団体と見るべきです。

「お金の」為に生きる
統一協会員は「為(ため)に生きる」という合言葉を唱え、自己犠牲的な精神を強調されています。自分達の必死の働きは、やがて実現する地上天国のため、

七人乗りのボンゴが居眠り運転

交通事故 血染めの幕開け

誘拐逸脱、三人投げ出され二人死亡

【神戸市】神戸市東灘区にある神戸市立中央病院に、神戸市立中央病院に搬送された乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。

珍味売るアルバイト?

若い女性ばかり白河夜舟



【神戸市】神戸市東灘区にある神戸市立中央病院に、神戸市立中央病院に搬送された乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。乗客七人のうち、三人が死亡、四人が重傷を負った。

全人類のため、と思つています。が、実際は文鮮明教主の野心と贅沢な暮らしを支える為に心身をすりへらされているのです。

もし会員が経済活動その他の目標を達成で

こうして統一協会は際限のない労苦を信者に課することになるのです。

一九八八年二月には厳しいノルマを果すため、十分な睡眠を取らずに珍味売りをしていたグループのワゴンが横転して、投げ出された三人の女性のうち、二人が死亡、五人が怪我をする事件があり、その前年の八七年にも東京環状八号線で、やはり運転手の居眠り運転が原因と思われる事故で三名が死亡、三名が重傷を負いました。アメリカでは一人で戸別訪問をして「チャリティー」の名目でイースターの卵売りをしていた女性が白人男性の家に引きずり込まれ、暴行を受けたあげく殺される、という事件がありました。

これ以外にも苛酷な経済活動による悲惨な事故、病氣、事件が多くあります。これらを統一協会内部では「殉教」である、と美化しますが、お金のために大事な生命をすりへらしていると思えません。

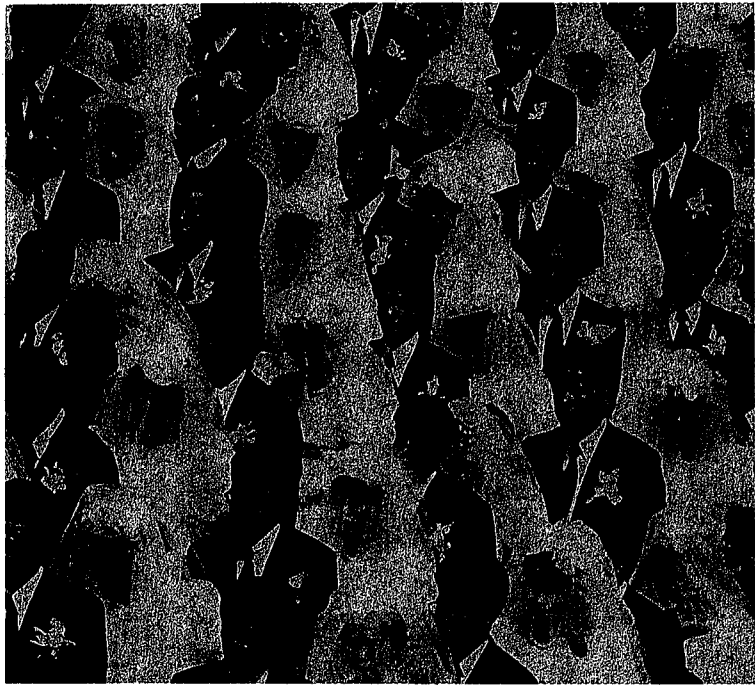
さず、ノルマを果せない、そのために神の摂理が遅れたとされ、その何倍かのノルマや断食などの「償い」を求められます。

八 奴隷の結婚

— 合同結婚式 —

ある人が、「統一協会の合同結婚式は奴隷の結婚式だ」と言いました。たしかにかつての奴隷には結婚の自由がなく、主人が選ぶ相手で満足しなければなりませんでした。

自分達の血統がサタンに汚された悪の血統であると教えられている統一協会員たちは、教祖の主催する合同結婚式だけに救いの道があると信じていますから、どんな労苦に耐え



ても、「祝福」と呼ばれるこの結婚式に参加したいと願います。

特に「女性は罪が深いから決して相手をえり好みしてはならない。結婚させてもらえるだけでもありがたいのだから、男性であるというだけで満足しなければならぬ」と聞かされます。しかし本場の事情は女性会員に比べて男性会員が少ないことにあります。とにかく無理しても結婚相手の男性をかきあつめなければなりません。ですから、相手が嫁不足に悩む韓国の農村の男性であったり、「統一協会に入れば日本女性と結婚出来る」と

言われて参加する外国人男性の場合もあります。結婚して初めて、相手と自分の信仰の基準や統一協会に対する見方が全く違っていることに気付いて、失望し、離婚をして帰ってくる場合もあります。

かつては、この合同結婚式に参加できるためには、三年半以上の活動、また三人以上の霊の子（伝道して協会につなげた人）がいることが条件でした。「祝福結婚」を人参のように鼻先にぶらさげて馬車馬のように働かせたわけです。

しかし、現在お金の必要がさしさまってきた統一協会は、その条件を緩和しました。しかし、祝福（結婚）の条件として結婚式の前後、合わせて二〇〇〜一六〇万円の費用を工面するように要求されます。

このお金は親から出してもらおうか、さもなければ協会に立て替えてもらってにおいて、UCグループ（統一協会系企業）の商品（印鑑、人参茶など）をいわゆる靈感商法でアルバイト的に売ることによって、返してゆかなければなりません。

しかも、結婚してからすぐに同居できるのではあり

ません（合同結婚式に参加した人々がすぐに同居して一斉に妊娠をしたなら、協会の経済活動はストップしてしまいます）。

原則的には「三年間の働き」が同居の条件ですが、実際は女性が三三才前後にならないと同居させない、つまり子供を作らせない、ということになっていきます。

さらに同居して家庭を持つ段になると二〇万円の献金が要求されます。こうして合同結婚式に参加できても、夫婦として同居がゆるされるまで、また新たな奴隷状態におかれるのです。

以上は日本人どうしの場合に言えることで、韓国人信者をはじめ、外国人信者は日本人ほど文鮮明にたいして従順ではありませんから、多くの場合四〇日の聖別期間が要求されるだけであり、相手の男性の都合によつては直ちに同居し夫婦関係に入る場合もあります。

九 「通教」でも安心できない

靈感商法などの経済活動が活発になされていたころは、猫も杓子も「献身」へと駆り立てられ、フルタイムの働きをするよう誘われました。

統一協会の内部に働く場が少なくなった現在は、「通教」とか「勤労青年」と言っ、家からの通信の信仰生活も状況に応じて認められるようになりまし

た。しかし、「うちの子供は家にいるから、職場に通っているから」と言っ、親は安心することはできません。地区によっは、勤労青年は少なくとも給料の十分の三を献金するよう言われ、ボーナスもすべて献げなさいと言われます。将来のために必要な貯えをすることなど考えられません。

さらに、働いている人には、銀行からのローンによる借り入れを本人の名義でさせます。かつては献身者にしか認められていなかった合同結婚式にも参加が認

められるようになりましたが、合同結婚式をして会員どうしが夫婦になると、親による救出は非常に困難になってしまいます。そして、夫婦単位で搾取の対象になります。夫婦で会員となり、文鮮明による既成祝福（合同結婚式）を受けたカップルがそれまで住んでいた家を協会にささげ、自分達はアパート住まいをしてる例もあります。

家庭の主婦であれば、統一協会関連企業の製品の展示販売会のために人を動員し、化粧品の販売をしたり、家庭訪問をして家系などを聞き出し、悪因縁を断ち切るための印鑑や人参茶販売の尖兵となってゆきます。

もちろん、その間に、「家庭復帰」といつて夫や子供に伝道し、家族ぐるみで協会にかかわるようさせます。そうなればやはりその家庭の全資産が統一協会の財産になります。統一協会の対社会的な経済活動がゆきづまりつつある今、統一協会の新たな資金源は、以前にもまして協会員の家庭に向けられるようになりました。

家族が会社を営んでいたり、資産家である場合には「家庭復帰」を優先させ、献身させないで、普通の会社勤務をさせる場合もあります。

献身している青年達もいつかは家に戻されるでしょう。統一協会側の事情から言えば、子供がいる会員を協会が養うためには負担がかかりすぎるからです。

しかしわが子が帰ってくるその時には、親はあまりにも年を取り過ぎています。

一方あいかわらず協会員である子どもの方は、統一協会に献げるために、親の財産の分け前を要求するのです。

一〇 統一協会員は生涯だまされ続ける。

嘘つきは原理のはじまり

「嘘つきはどろぼうのはじまり」ということわざをもじって、「嘘つきは原理のはじまり」と言った人がいます。つまり、これまで嘘をついたことのない自分の子供が、親に嘘をついたり隠し事をするようになって

たら、それは原理（統一協会）にかかわっている危険性がある、ということ。しかし、本当はそれ以上に本人が騙されているのです。統一協会では、神様の目的のためならずすべて善であり、神様のための嘘も「善い嘘」となります。統一協会の正体を隠して、路上アンケート、友人によるサークルへの勧誘、印鑑などの訪問販売という姿で本人にちかづいて来るのも「善い嘘」なのです。

この時点では、本人も宗教ということを知らないまま、ビデオを見ているうちに、「神の存在」、「真の生きがい」や「使命観」に目覚めさせられてゆきます。つまり、本人は自分でもきずかない内に、一つの宗教的な教育プログラムのなかに乗せられてゆくようになるのです。

本人は、今自分が学んでいるこの団体が献身を要求したり、靈感商法をさせたり、全財産を献げること要求したり、合同結婚をさせたりする団体であることはまったく知りません。

そうして、すっかりこの教えが素晴らしい、と感

じ、またその教えに生きている人も素晴らしい人達だ、と思うようになったとき、はじめて「統一協会」の名が明かされます。

このとき「あの悪名高い統一協会なのか」と一瞬驚いても、こんな人に人のことを考え、犠牲的に生きていい、と思うように思います。

この時も、親や周囲の者には統一協会に入ったことは明かされません。「もう少しあなたを理解してから明かしたほうが親も安心するでしょう」というような言い方で、親に知られないようにします。教育が終了する前に自分達に不都合な情報が入ることを防ぐためです。こうして「たとえどんな反対を受けてもこの道をゆ



偽物の写真

くのだ」という決意ができたとき、初めて、自分が入っているのは統一協会である、ということが明かされるのですが、ときはすでに遅く、驚き、あわてた親がどんなに叱っても、批判しても、統一原理の教理を真理だと思い込んでいる彼らは、そのような親の意見を、神を知らない人の、次元の低い批判としか受けとめません。こうして統一協会の嘘はひともまず成功するのです。

統一協会の中に入ってしまった人々は、「もう自分達には嘘は語られない、嘘をつくのは外部の人に対してだけだ」と思ってしまう。

しかし会員が文鮮明をメシヤとしてますます深く信じ、尊敬し、彼のために熱心に働くようにさせるための嘘は「善い嘘」なのですから、嘘はまだ続きます。こうして文鮮明にまつわる神話や美談が幹部によって次々に捏造されてゆきます。つきつめて言えば、文鮮明をメシヤと信じるためには、どんな嘘でもかまわない、とい

うことになってしまふのです。

偽造される神話

例えば、朝鮮動乱のとき、文鮮明が足の折れた弟子を、わざわざ敵地に引き返して、背負い、川を渡った、という美談が写真とともに教えられていました。ところが最近、その写真の人物が文鮮明とは別人であることがわかり、この写真は偽物であることがわかってしまいました。

また彼が一六才の時、一九三五年四月一七日のイースターの日曜日に復活のイ



文鮮明が復活された最初のイースターの日曜日に復活のイ

エスに出会った、と自分で証言していますが、一九三

ようか。

五年四月一七日はイースターでもないし日曜日でもない、と批判をされました。イースター（復活祭）はユダヤの古い暦にもとづいているので、毎年移動するの

様々な神話、虚像が作られるのとは反対に、教祖の実像は隠されます。内部では文鮮明教祖は三回の結婚をした、と教えられ、「三回」という数字に意味があ

です。

そこで、統一協会はこの批判をかわすために「四月一七日、イースターの日曜日」というのは、実はイエス様自身が復活された最初のイースターのこと、紀元二八年の四月一七日が日曜日だから、それがイエス様の復活の年になる、といいかえました。しかし一九三五年四月一七日の日曜日に出会った……と言っているのを、後になって「二〇〇〇年近くも前の日曜日のことだ」というのは余りにも馬鹿げています。統一協会員たちはこれまでそんな読み方をしていたのでし

る、と教えられています。正式な結婚は最初の夫
と現夫人の二つだけです。「二度目」の女性とは正式
な結婚ではなく、最初の夫人がまだ妻としての籍にあ
ったときに子供をもうけています。さらに二度目の結
婚をしてからも別の女性との間に子供をもうけていま
す。

つまり、教祖の結婚は二回か、もしくは「子供をつ
くったことがおおよけにわかっている関係」は四回で
あって、三回の結婚などという数はまやかしだとい
うことがわかります。

また統一原理を解明したのは文鮮明である、と会員
は教えられています。実はその殆どが彼の先生であ
った金百文の「聖神神学」の盗用に過ぎないことを知
りません。

これらの指摘については統一協会は外部には正当な
訴えも反論もできません。ただ事実ではない、と繰り
返すだけです。

しかし、アメリカで二〇万ドルの脱税容疑で一九八
四年から八六年にかけて服役したときはさすがに否定

しようがなく、内部にたいしては、これは宗教迫害で
あるとか、信者の不信仰を一身に背負ったのだ、と美
化して教えました。

このように、セックス、金、権力を飽くことなく追
及し、そのためにあらゆる嘘をつき、聖書の教えすら
歪曲してしまう男を多くの青年達は「メシヤ」である
と疑わずに献身しているのです。

彼らは自分達を愛している上司（アベル）や幹部が
嘘をいうはずはないと思っています。しかし上司もま
たその上の人々の嘘の犠牲者なのです。最終的には教
祖もまた、自分の妄想か、もしくは「悪魔」に欺かれ
ている犠牲者なのかもしれません。聖書では「悪魔は
偽りの父」と教えています。

一 呪いの教えに苦しめられる

統一協会員は身体、財産の安全性を脅かされている
だけでなく、その教えによって精神的にも縛られてい
ます。

「統一協会をやめると先祖、子孫を救うことができ
ず、七二代までたたられ、霊界でみんなから責められ
る」、「統一協会をやめて普通の結婚をした場合、奇形
児が生まれるか、すぐに死んでしまう」、「統一協会を
やめた人間はみな廃人同様になっている」というよう
な脅かしを受けています。

先に述べたように統一協会員は、外部の人はだまし
ても自分達はだまされていない、と思っっています。か
ら、アベルの言うことを信じて疑いません。そして恐
怖におおのきます。

こうして、肉体的にも、精神的にも疲れ果てて、も
う私にはやってゆけない、と思っても、この霊界の恐
怖というものに縛られて、やめるにやめられないで苦
しんでいる人々もいます。神経的に弱い人は、精神に
異常をきたす場合もあります。

情報を制限された協会の生活においては、かつての
日本が大戦中に大本営発表だけを聞かされていた状態
に似ています。「鬼畜米英」ならぬ「反対派（サタ
ン）」にたいする恐怖と憎悪を煽り立てられ、決して

それらの人々の言うことに耳をかさないようにさせま
す。

また統一協会が発展しているように思い込まされ
「いまが大事な時だ」と、言われて、戦争ならぬ無謀
な経済活動に駆り立てられているのです。その最後が
どんな悲惨な結末になるかはだれにも予測がつかませ
ん。

また、仮に統一協会の活動に疲れ果てて自分から家
に戻って来たとしても、このような呪縛の中にいるた
めに、罪意識にさいなまれ、正常な社会復帰ができな
いでいるケースもあります。

また、墮落人間の血がサタンに汚されており、祝福
結婚以外にそれを清める道がない、と教えられていま
すから、通常の恋愛や結婚に嫌悪感、罪悪感をもって
います。そして、自分が協会の活動について行けな
かったことへの罪責感から、ふたたび協会にもどってし
まうこともあります。こうした呪いの教えから解放し
なければなりません。

一二 親にしか救えない

統一協会からの救出を親がするのは、それが親（または家族）の愛情によってしかできないことだからです。

しかし、その「愛情」は「統一協会に入ってしまったて、世間体が悪い」とか、「親族の恥だ」とか、「外国に嫁にゆかれたら困る」、「家のあとを継いでもらいたいから」というような親のエゴ的な愛とは異なりません。そんな言葉を決して口にしてはいけませんし、この際そんな動機はきっぱりと捨てなければなりません。

ここでいう親の愛とは、第一に間違った道をすすんでいる我が子の前に体を張ってもたちはだかるような親の愛です。

統一協会の中にいる青年達は、自分では自分自身の意志で行動しているように思いながら、マインド・コントロールされている自分に気づいていません。

ものですから、現在の法律では刑事犯とはなりにくく、大部分の被害はすべて民事訴訟として処理されています。募金活動のように、その収益がどれくらいで、どのように用いたかをチェックすることが困難な場合もあります。

しかし、現行の法律で十分対処できないからといって、にせ募金をしていいということにはなりませんし、犯罪的な靈感商法をしても良い、ということにはなりません。その分だけ家族の努力が重要になってきます。

マインド・コントロールされて、善悪の見分けがつかなくなっている人であっても、完全に良心の働きが失われているわけではありません。統一協会が教育されてきた思考回路の奥に、本来の自分があり、他人をだますことにたいして、どこかで良心の痛みを感じているはずですから、親は子供が小さいころに教えた善悪の判別を、もう一度親の切実な思いによって、思い起こさせなければならぬのです。

説得に必要なものは、親の愛情にもとづいた「厳し

ですから、悪質な経済活動にしても、上から命じられて行っているにもかかわらず、「自分の意志で行っている」ように思い込んでいます。たとえ社会的な批判をうけても、「協会は関係ない。当人たちが自分の意志でしていることだ」と言いますし、またそう言うように教えられています。

ちょうど暴力団が下の者に犯罪行為を行わせ、警察につかまると、親分の命令ではない、自分一人がやったのだ、というようなものです。

組織としての統一協会の関与を否定し、あくまで個人に責任を負わせている以上、統一協会が悪い団体だと分かっている以上、その組織をなくすことは容易ではありません。暴力団が悪い団体だと分かっている以上、なかなか根絶することができないのとよく似ています。どちらも、表向きは「宗教」とか「会社」の表の顔を装って、陰で会員、もしくは組員をあやつっているからです。

さらに、その経済活動もまた、相手（被害者）に対する巧みな「マインド・コントロール」の結果による

さ」ですが、さらに大切なものは親の愛情の無限の深さを示すことです。

統一協会は結婚詐欺のように、偽りの愛で協会員を捕えています。身体障害者や精神障害者は誘わず、健康で働ける人だけを勧誘し、お年寄りでも、お金を持っている人しか相手にしない団体に「本当の愛がある」と思い込ませています。

また、文鮮明の教える偽りの愛にも縛られています。「神は人間の親である」という教えに感激した子供達は神の愛を知った、と思い込んでいます。しかし、親の愛は「無償の愛」であるはずなのに、いつのまにか、この「親なる神」は人間の罪をゆるして仲直りしてくれるための「償い」をどこまでも要求する神様になっっているのです。

この「親なる神」はさらに「文鮮明夫妻」のイメージへとすり替えられてゆきます。会員にとっては、教祖夫妻こそ親なる神の具現者であり、「真の父母」なのです。

しかし、もし統一協会員が激務のために精神に異常

をきたしたり、また事故のために寝たきりになったとき、真の御父母様である文鮮明夫妻が引き取って面倒をみているのでしょうか。そんな例は一つもありません。

文鮮明は一ダース以上もいる自分の子供たちに、珍味売りをさせたり、戸別訪問させてお金を集めるようなことはさせないで、アメリカ留学までさせて貴族の子弟のような生活をさせています。しかし、彼のために働くだけ働いて健康を損ない、使いものにならなくなった「子供」たちは、かつて「仮の親」、「肉の親」と呼んだ両親のもとに送り返されてしまいます。

しかしそんな悲劇的な結末になるまえに、家族は、偽りの愛の幻想に捕えられている本人のために、親の本当の愛を、身をもって示してゆかなければならないのです。救出は決して他人に依存してできることはありません。すべてをなげうってまでも我が子を救いたい、という親の切実な愛情がどこまでも中心となるのです。

II 救出するには

II 家族が統一協会に入ってしまった。
どうすればいいのかII

一 まず電話から

……私の娘は、大学生ですが、春休みで家に帰って来た日から、私たち夫婦は毎日「お願いだから、原理研究会は止めて」と言い続けて来ました。もう一ヶ月が過ぎました。娘は泣きじゃくってばかりいます。どうにか助けて頂けないでしょうか。

この両親は、娘の前で白装束に身を固め、出刃包丁を握り締めて互いに突き刺そうとするまで思い詰めていました。娘は、泣きじゃぐりながら、両親の出刃包丁を取り上げ、庭に捨てる。両親はまた出刃包丁を持ち出し、互いに向かい合う。このような状況を続けて来たのでした。

……娘は、学生時代から統一協会に通ってしまし

た。今から一〇年前、私たちは娘を迎えに行って、とことん話し合い、娘も「やめる」という約束で一緒に実家に帰って来ました。その後しばらくは良かったのですが、ここ数年前からまた統一協会に通うようになりました。

……昨日、妻が食卓の上に置き忘れていた本の中に、原理という言葉が繰り返して出て来るのです。そこでもしかしたら、これは統一協会ではないかと思ひ、妻に聞きたりました。また家の通帳はどうなっているのか調べました。すると二十万円のお金が無くなっているのです。二〇年かかって一生懸命働いて貯めたお金を、私に隠して捧げてしまったというのです。妻とよく話し合って、一緒にお話しをお聞きしたいと思います。

……息子が原理研究会に入っています。この春から責任者になったという話しをしています。私たちは、そのうち帰って来るだろうと思つて、そのままにしておいたのですが、このままではいけないと思ひはじめ、電話しました。

この息子さんは、説得をはじめ三週間が経った頃、散歩に行つて来ると言いながら、消息を断つてしまった。両親は、原理研究会に帰つてしまつたところがかりしていたところ、それから三ヶ月後に顔を真つ黒にしてひよつこり自宅に帰つて来ました。本人は、肉体労働をしながら点々とし、考え続けたといひます。

……またある若い主婦の方から、こういう相談があつた。統一協会の修練会に出席した時に、その方はしきりに聖書を読み、そしてガラテヤ書（誤つた教えに陥つていく人々のためにパウロは嘆いている）に関心を持つたそうです。修練会が終了と同時に統一協会はやめました。しかしその後、結婚し、最初の子供を流産したことから悩み初め、統一協会をやめたから、今、自分は呪われているんだ、もし生まれて来たとしても悪魔の子供ではないかと、ほとんどノイローゼに近い状態で相談に来ました。

統一協会の後遺症の恐しさは、こういうところに現れます。説得でなく、自然にやめて行つた人は数限りなくおられると思いますが、その中で、随分多くの方

が人生の大切な時に、人には言えない悩みで苦しんでいるのではないのでしょうか。

……大学生の息子なんですが、車を運転していると、いきなり前の景色が消えてしまつて、気がついたら、ガードレールに衝突していたと言ふんです。お巡りさんから自宅に電話が入り、お宅の息子さんはなんだか変だから引き取りに来てくださいということ、迎えに行きました。その後、あまりにおかしいので精神科の医師に見て頂くと、これは明らかに病氣だ、ということでした。今、本人は入院していますが、原理、原理とわけの分らないことばかり言っていますから、是非会つて頂けないでしょうか。

両親は、医師の許可を得て、息子を連れて相談に来ました。そして本人は「早く原理から逃れたい」というような意味を妄想的に、しかも衰弱しきつた表情で訴えて来るのですが、精神的に錯乱しているよう、援助のしようもありませんでした。統一協会は、反対派が精神病院に入れるなどと宣伝しますが、どちら側が精神病院に送つているのでしょうか。このようにな

つた人を統一協会では、靈的になつたとして放り捨ててしまいます。

二 家族側の問題

「息子（娘）は、本当に、まじめで心のやさしい子なんです。その子が統一協会に入るなんて」。統一協会に入る青年たちは、まじめで、心のやさしい、そして親から見て、とてもいい子ばかりです。統一協会に、どういう青年たちが入つて行きやすいか、大体の傾向は、「親から見ていい子たち」が入りやすいのですが、どうしてそうなのか、その理由を考えて見ましょう。

親に反抗しなかつたい子

「親から見ていい子たち」が最近多くなつていて、ではないでしょうか。こと統一協会問題に携わつていて、つくづくこの傾向を感じるのです。受験戦争から来る教育熱心さ、管理された環境、遊びの貧困さ、子供たちの自由さが段々狭められている社会的環境があ

ります。子供たちを取り巻く環境は、親から見ると「いい子になる」環境であり、「親から見るといい子」が当然増えるはずで

ご両親に聞いて見ますと、「自分の子は、まじめな子、心のやさしい子で、何でもしたいことは自由にさせてやった」という方が多くいます。しかし本人たちに聞きますと、その反対なのです。「何一つ自由にさせてくれなかつた」という不満を聞きます。実は、親の喜ぶ選択をし、無理をして親の思うような方向に自分を合わせてきたのです。反抗できなかつた、自分の意志を表現できなかった、これは「いい子」を生む社会的環境が家庭に食い込んでいからではないのでしょうか。

「親から見るといい子たち」の不満は、これは説得経験から言えることですが、本当は自分が何をしたいか色々試したかつたのだが、しかし親から見るといい子であるために、そういう機会を得なかつた、という不満が大半でした。少し難しい表現で言えば、自己実現できなかつた不満を両親に対して持つていっているのです。

このような社会的環境そして家庭的な環境を、非常にうまく利用しているのが統一協会です。統一協会の教育を受けて段々深入りしますと、この世のすべてが、原理によって、そして文鮮明を中心に動いている、この運動の一員であることは、世界大の使命を担うことであり、個性完成（完成された人間）に至る道であると信じ込みます。青年たちは、原理によって自己実現する錯覚に陥る訳です。

「親から見ているいい子たち」は、自己実現できなかった不満を両親に対して持っています。そして一方、統一協会に入信してしまうと、辛いことがあっても、また少し疑問に思うことがあつたとしても、自分の意志を従わせなければならぬという意識が強く働きます。さらに原理の教えで「アベル・カイン」（アベルは上司、カインは部下）という教えがあつて、統一協会への不満や疑問を完全に封じ込んでいるのです。

それゆえ説得にあつては、本人の心を聞くということをも最も重要にしなければなりません。過去の家庭環境がどうであり、誰に非があつたのかではなくて、

つてしまった。きっと他人を勧誘し、さらに加害者になつていゝのでは。あるいは、隣近所に合わす顔が無い、恥ずかしい。

やめさせたい、とおっしゃる家族にもう少し考えて頂きたいことがあります。統一協会で信者の教育指導をしていたある幹部から、ビデオセンターで教育中の人が一〇〇人いるとして、そのうち献身にまで至る人は五、六人と聞いたことがあります。九五%もの人達が献身前に止めていくことになりました。またたとえ献身したとしても、いずれ合同結婚式を迎え、そして家庭を持つまでには、献身者の半数以下しか残らないのです。すなわち、やめさせたいと言ふことであれば、自然にやめる確率の方が高いのです。

ではどうして説得が必要なのかと言へば、やめさせるといふのが目標ではなく、家族がもう一度再出発するため、が説得の目標です。やめさせたいといふのであれば、本人の方からやめて出て来る確率は高いのです。しかしそれには随分年月を経なければなりません。しかも帰つて来た本人は、統一協会に植え付けら

説得の進行と共に、本人は今までの家庭の在り方に、本当はこうあつて欲しかったという自分の気持ちを言うでしょう。本人の気持ちを真剣に受け止めてほしいのです。そしてその備えができていくかどうかの説得を成功させる鍵となります。

三 家族の再出発（やめさせるためか、家族がもう一度出直すためか）

「私の子供が（あるいは妻、夫）統一協会に入つてしまつて」御家族の最初の電話は、気が動転しておられたり、重々しい気持ちで一杯です。本当に、苦しめられた挙げ句に、電話してこられます。「何とか、やめさせることはできるでしょうか」、「やめさせたいのですか」と、続きます。そして今までの経過をお聞きしますと、やはり、「やめる」「やめない」の押し問答を随分繰り返し、家族は疲れ果ててしまつたという話しになります。

やめさせなければならぬ、そう思う家族の心境も分かります。自分の息子・娘が社会悪をする集団に入れた霊界の恐怖に脅え、あるいは入信時代に非原理の人達（一般の人）を見下げて来たためによる屈折した優越感で人間関係に苦しみ、人生の敗北感を味わいます。やめてきたあとも原理の後遺症が付きまゝです。それが青年の場合には、特に結婚に対する恐怖があります。

家族はこの団体が社会悪を行っているから、やめさせなければならぬ、ということだけではなくて、やり直しがきかない貴重な本人の人生のために、放っておくわけにはいけません。社会悪だからという理由以上に、親の愛情を持つて取り組まなければ、決して本人は心を開かないのです。

それには家族（両親、本人、兄弟）がもう一度、家族として再出発しようという決断が必要になります。家族がもう一度やりなおそうとするためには、本人もそこにいなければ再出発にはなりません。だから本人が統一協会をやめるといふことは、このように家族が再出発しようとする決断を下し、そして心を合わせてこの問題に取り組むとき、その過程の一つとして起る

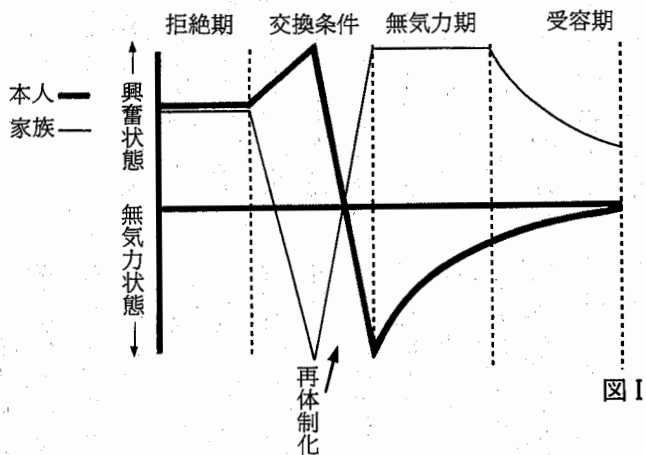
ことなのです。本人が帰って来る家庭を、もう一度、造り直すのです。

帰るところは統一協会ではなくて、家族のものであることを本人が悟った時に、説得は終了を迎えます。

四 説得Ⅱ心のドラマⅡ

【拒絶】

図Ⅰは、説得開始から本人と家族がたどる心理状態を今までの経験から分かり易く図解したものです。初めのうち本人は、統一協会の教え込みによって極度に緊張しています。内部では免疫講座なるものがある、注射を打たれて廃人にされるとか、手錠を掛けられるとか、女性であれば犯されるなどと恐怖を植え付け



図Ⅰ

られていきます。植え付けられた恐怖によって、本人の心は閉ざされ、しばらくは(二日〜一週間)拒絶状態が続きます。

拒絶期では特に《家族は一方的に話さない。まず本人の言い分を聞くこと》、そして本人が言う内容を注意深く聞いて、本人の話した範囲内で話し合せて下さい。一方的な話し合いは、本人の心をさらに閉ざし、平行線になってしまいます。

【交換条件】

しかし時の経過と共に、内部で教えられたこととは違ふと本人も気が付き始め、精神的にも興奮が少し治まり始めたところで、「話し合うのなら、家でもできるじゃない。」「統一協会は止めるから帰ろうよ。」「原理を聞かないで反対するなんて、卑怯じゃ

ない。お父さんお母さんが統一協会では原理を聞いた後じゃないと、話し合っても無駄」などと、条件を次から次ぎに出して来ます。私の出す条件を了解しないと話し合いたくない、という状態です。家族は、本人の出す交換条件に引き回され、これ以上話し合っても無駄じゃないだろうかという気さえ起こってきます。このところを家族の「線が落ち込んでいる図解で表しました。家族は再び、これではいけない。本人を思う一心で再体制化するように努めます。家族の再体制化とは、家族の心が一つになり、一致協力する体制を立て直すことを言います。そして次に再体制化された家族と本人の間に、「愛(情)の綱引き」が起ります(後述)。この期間も平均的には二日〜一週間。

【無気力】

家族の再体制化は、本当に本人を大切に思い、本人の人生を大切に思う「愛」です。この家族の再体制化によって、状況は、今までの拒絶や交換条件の時の話し合いとは全く違って来ます。本人の心の中には、これほど私を思ってくれる家族を捨てて統一協会に逃げ

込むことはできない、しかしその反対に、もし統一協会を離れることになったらどうなるだろうか、これも教え込まれた死よりも恐い「霊界の死」に脅えます。また人生のすべてを掛けようとしたものが崩れつつあるむなしさを感じ、無気力な状態が続きます。

この時、本人は統一協会を続けようがやめようが、もうどうでもいい、というような投げやりになる人も多くいます。家族または援助者(牧師・神父など)は、本人が問題を投げやりにせず、自分で判断を下せるように支援します。本人の心はナイーブであり、カウンセリングの必要もあります。また「分かったふり」すなわち、免疫講座で教え込まれた「偽造脱会」を装うケースも、こういう状況下で起こって来ます。

【受容】

原理の誤り、教祖の虚像、統一協会の実態、この三つのポイントを本人が納得した時に、統一協会からの脱会を決意します。これは本人の決意であって、家族も、援助者も、本人がよく見極めることができるように支援するのみです。統一協会を去る決意が固まりま

すと、その決意と同じほどの強さで去ることの恐怖、
 霊界の恐怖が本人に付きまといまいます。また中にいる人
 達が可愛そうだという感情と共に、よくしてくれた人
 達を裏切ることになるのではないかとという後ろめたさ
 も感じます。そしてこれからの不安も募ります。

こういう時期に、脱会した人に会うことができると
 本人の感情もかなり和らいできます。脱会する時に
 は、みんな同じ様な体験をしたんだ。そしてやめても
 霊界の恐怖なんかないんだ、ということが実体験を通
 じて伝わって来ます。そして脱会。無気力期と受容期
 はゆるやかな曲線上で表すことができ、平均的には合
 わせて一〜二週間。本人が一気に統一協会の欺瞞に氣
 づく場合もありますが、最近は無疫(説得対策)が強
 く、徐々である場合が多くなっています。

このように説得を四つの時期に区分しますと、本
 人、家族、援助者それぞれがその時期にどのような状
 態にあるか、どのような援助が必要なのかが分かり易
 くなります。もちろんケース毎に多少の違いはあるも
 のの、それぞれの期間が長くなったり短くなったり、

また飛び越して次の状態になったりする程度でした。
 例えば、拒絶状態からその次の交換条件がなくて無気
 力になったり、交換条件の期間に家族や援助者との話
 し合いで、次の無気力を通り過ぎていきなり受容にま
 で行く人もいます。しかし図Iの図解は今までの説得
 経験から原則的に言えることであって、参考にして頂
 きたいと思います。

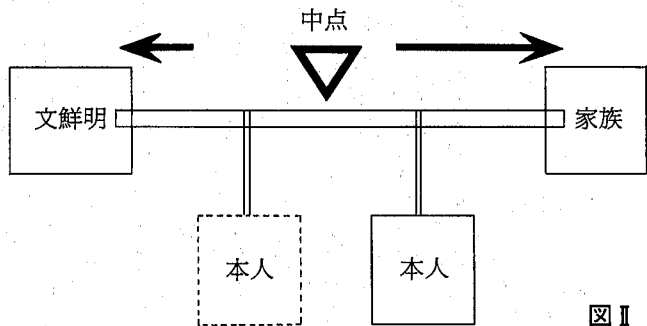
五 愛の綱引き、情の綱引き

前節の図解で、本人の出す交換条件で家族は困惑し
 気落ちしますが、その後、家族の再体制化で状況は真
 反対になることを指摘しました。このところが説得の
 中で、状況が一転する大切な場面です。この状況の反
 転は、「愛(情)の綱引き」で起ります。

入信当時は、統一協会は肉親の父母に対して感謝の
 念を持つように指導します。そして教育段階が進むに
 従って、その肉親の父母への感謝を眞の御父母様(文
 鮮明夫妻)へ向かわせ、献身段階になると、すべてを

眞の御父母様のために捧げることとなります。入信か
 ら献身にいたる過程で、家族への情を文鮮明夫妻に向
 けさせる一方、献身以後は、家族への
 の思いが強い信者に対しては「あな
 たは分別しなければならぬ」(家
 族への情を断ち切ること)と、入信
 当時とまるつきり反対の指導をしま
 す。このように肉親の父母への情を
 巧妙に操りながら文鮮明夫妻に情を
 結び付けているのです。

それゆえ「愛(情)の綱引き」
 は、本人を挟んで、本人が心惹かれ
 ている文鮮明夫妻と、本当に心を傷
 め、心配して見守って来た家族との
 間の綱引合戦です。やめろやめな
 い、社会悪をしていることを認めろ
 認めない、そのような話し合いでは
 ありません。言葉を越えた心からの
 思いで、家族がもう一度、本人と一緒に人生をやり直



図II

す覚悟で、本人の心に語り掛けてください。必ずその
 愛は伝わります。

なぜ説得するのか、それは家族が
 もう一度出直すためでした。説得を
 準備する段階で、家族はこの目的を
 確認しておきたいと思えます。

家族の愛が、原理で武装している
 本人の心に届いたその時から、自分
 も真剣に考えなければならぬ、い
 い加減な態度で逃げてはいけな
 いという気持ちが起こってきます。家族
 の愛が、原理という防御を突き破つ
 て、本人の心に通じる風穴をあけま
 す。

「愛(情)の綱引き」で、本人が
 中点を越して家族側の方に位置が移
 ったかどうかは、その態度に現れ、
 今まで統一協会について言われて来
 たことが本当であったかどうかを検証するために、自

分から積極的に取り組み始めます。しかし前節でも説明したように、無気力の時期がしばらく続き、援助者の支援（聖書と原理の話し、文鮮明の虚像、統一協会の実態の説明）が必要となります。

「愛（情）の綱引き」は、このように重要な転換点を造り、本人と家族との信頼関係を再び造りあげて行きます。しかしここで言うっておかなければなりません。「愛（情）の綱引き」は、決して説得の方法論の一つではないということです。家族が意図的にそうしようとしても通じるはずがありません。説得に入る以前から、この大切な家族の愛について、そのために説得するのですから、深く考えておいてほしいと思いません。

六 マインド・コントロールについて

関西のある大学生が、原研（統一協会の学生組織、原理研究会の略称）のF活動（経済活動）をサボって、夏休みに帰って来ました。両親は、何かあったの

に違いないと感じ、説得の準備に入りました。

彼は夏休み中に自動車学校に通って、一ヶ月ほどで免許を取りました。両親は彼が自動車学校に通っている時から、免許を取ったら家族で遠出しようかと彼と約束していました。

免許が交付された次の日、早速、家族全員が彼の運転で旅行に出かけました。そして宿屋に入って、「実は……」と両親は話し初め、説得に入りました。

私が彼と話し始めて四日目でした。

「僕は、原研の生活がいやになってきつぱりとやめて来たんです。ホームを出る時は寮長と三時間も話し合っ、とにかくやめたい家に帰りたいと懇願しました。先生の話しを聞いていて、言っていることは理解出来ていたんですが、ホームにいる時に本とかビデオを見て、説得を受けたらどうするのか教えられています。それで教えられた通りにしなければいけないという気になったんです。一応、教えられた通りにしなければいけないと無意識にやっついていて、今日、こうやっている自分が何だか変だなと思っただけです。きつぱり

やめるつもりで帰って来たのに、おかしいですよね」。

彼は、やめる決心をして家に帰って来たのに、いざ説得に入ると、現役同然の振る舞いを四日間も続けたのでした。マインド・

個人的な話しを禁じ、長時間の教育によって催眠的に教え込まれます。

③生活管理、単純化した法則性

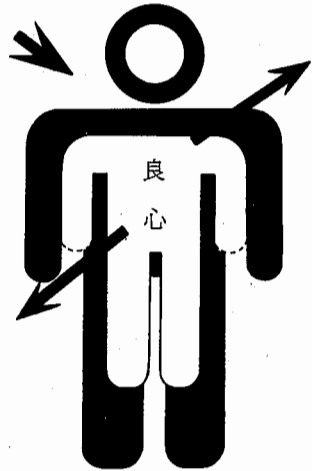
【コントロールされている自分】
本来の自分、良心の働きや自分の考えが出てくるとそれを罪として押さえ込む

図Ⅲ

くり返し教育によって、アペルーカイン（上下関係）、アダムーエバ（男女関係）など、単純な法則性が本人の生活を支配するようになります。いわゆる報・連・相もこの一つです。

④霊界の恐怖

もし原理から離れると、死んだ後にもまた死ななければならぬ



【本来の自分】良心が働き、考える

自分で自分の法則になる
二重人格・二重構造のアペルーカイン

コントロールとはどういうものか、その一角がお分かりいただけると思います。

そこでマインド・コントロールの例をあげます。

①愛情攻め、ほめちぎり
勧誘する時、相手から警戒心をもたれないように徹底した教育がなされています。いい人ばかりだと感じさせるためです。

コントロールは、二重に掛かっている
1. 上司からのコントロール
2. 自分の内側での二重構造によるコントロール

アペル（上司）からのコントロール

い、という霊界の恐怖を植え付けます。これも本人を支配する単純な法則の一つです。

②催眠的手法を用いたくり返し教育

一例としてアペルーカインという法則性がどのような

に機能するかを考えて見ましょう。

靈感商法を行っている信者も心が痛まない訳ではありません。大金をはたかせてその人に申訳ないという気持ち、すなわち本来備わっている良心も働くのです。しかしもう一人の自分があったら、原理の考えではない自分の考えが出てくると、それは不信仰なんだ、と機能するのです。統一協会の考え方、上司の考えに従うことが信仰であり、自分の考えが出てくるのは不信仰なのです。この法則によって、自分で考えることを奪い取っているのです。このように本人の心は二重構造になっていて、本来の良心を持つ心を、コントロールされた心が押さえ込んでいます。これがアペル・カインの単純な法則です。人間の思考パターン・行動パターンをコントロールするには、一つの指示に対して単一の反応が返ってくるようであればなりません。もし本人がどういふ反応をしたらよいか、幾つもの反応の仕方があって考えてしまうようでは、コントロールが利かないのです。単純な法則によって、考えずに反応するからこそ、思い通りにコントロール

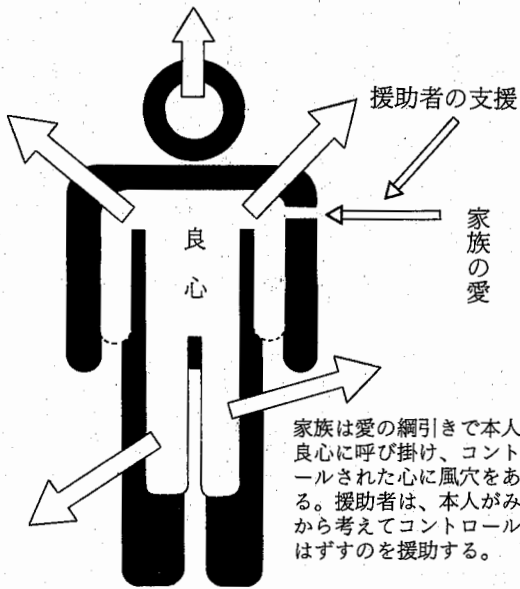
ールができるのです。

コントロールは、はじめは弱く、原理の繰り返し教育により、段々と強く利くようになります。そしてコントロールが有効になるに従って、良心を持つ本来の自分と、コントロールされている自分、すなわちその人の人格構造が二重になって行きます。コントロールされた自分は、本来の自分の考えが出てくると、それは罪であると反応し、本来の自分を押し下げて支配下に置こうとします。統一協会は、自分の考えが出てくるとそれは罪というように、コントロールに宗教的意味を加え、それを信仰として本人の心に植え付けているのです。

コントロールは、このように本人の人格構造に変化をもたらします。たとえ統一協会をやめたとしてもコントロールだけは生き残ってしまいます。それが先に紹介した関西のある大学生の体験であり、多くの方がこのコントロールの残存で苦しまれていることでしょう。

七 コントロールからの解放

これを打ち破るのは、ご両親の愛です。ご両親の愛が本人のコントロールされた心に風穴をあけ（愛の綱引き）、本来備わっている本人の良心に呼び掛けるのです。コントロールは、本来の自分が考えはじめ、家族や援助者がそれを助けつつ、本人自らがはずすのです。コントロールは本人が考えはじめると、壊れて行きます。



図Ⅳ

ると、とめどなく出てきます。こうして本人が真実をつかむに従い、コントロールはその効力を失って行きます。

この状態が、無気力期から受容期への移り変わりになります。

八 説得前に必要な事柄

① 原理思考の理解

「この世の常識は、原理では非常識。原理の常識は、この世では非常識」。説得の中で、よく本人の言う言葉です。統一協会の内部でもそのように教えています。ですから家族と本人の話し合

本人は、統一協会にいる時も、様々な疑問を持ちながら、しかし本来の自分を押しさえつけてここまでできたのです。疑問が出はじめ

いが平行線になって、家族は途方にくれてしまします。こんなに言っているのに、家族は何も分からない

い、言ってもしかたない。そして黙ってしまいます(原理では、相対基準を断ち切るという)。そのままだと話し合いは膠着状態になって行き詰まります。そこで家族は説得前に本人の考え方を理解しておくことが必要となります。

② 聖書の基礎知識

よく家族の方は原理の話しはむずかしいとおっしゃいます。それもそのはずで、原理講論は抽象的な漢字の羅列でギッシリ書かれています。入信当時は、原理をくり返し教育で教え込んでいますが、献身したあとは(教育に携わる以外の人は)入信時に学んだそのままの状態です。それで説得が始まると本人は久しぶりに原理講論を読んだ、という人も多くいます。原理講論は本人たちにとってもむずかしいのです。そういう状態であるけれども、原理的思考というものが集団生活を通して染み込んでいます。この原理的思考を知っておけば、家族と本人の話し合いの時、本人の言うことを理解する手助けとなります。

その原理思考を理解するためには、市販の批判書を

購入して学ばれる必要がありますけども、しかし読んでも分かりにくく感じる人もいるでしょう。教理批判は、その前提にある聖書に親しんでいないなら、理解は難しいのです。ですから少し遠回りするように感じられても、まずやさしい聖書の入門書を読むことをお勧めします。そしてさらに聖書を読み始められるなら、心の平安と、愛の大切さ、本人と話し合われる心の備えが与えられるでしょう。そのためにキリスト教会は皆様にお仕えます。

ある説得でこういうことがありました。拒絶期でしたが、父親と母親が聖書を真剣に読んでいました。娘さんがその聖書をのぞき込んで見ると、何とそれには赤や青の色鉛筆で沢山の線が引かれていたのでした。ご両親とも説得以前から聖書に親しみくり返し読んでいたのです。このことがきっかけとなって娘さんは家族と真剣な話し合いに入りました。両親の真剣さ、その愛、そして自分よりも聖書を良く知っている両親に対して尊敬の念さえ起こったのでした。

③ 脱会者や救出経験を持つ親の体験談

と伝えます。

この家族の思いやりが、こと統一協会問題では、裏目に出してしまうのです。本人は、上司に報告し(報・連・相)、この家族は要注意と、ブラックリスト入りしてしまうのです。それゆえ本人がマインドコントロールされていることを常に覚えておかないと状態をさらに悪くしてしまいます。本人と話す時には、必ずその内容は報告されますので、家族は統一協会の一員としての本人と話していることを意識しておかねばなりません。

九 説得時期と場所

説得は、救出カウンセリングとも呼ばれます。愛情を本人に注ぎ、話し合いを続けて行きます。この救出カウンセリングが、一般のカウンセリングと違ってするのは、その本人がマインドコントロールを受けており、コントロールをしている統一協会からの隔離が必要であることです。統一協会側は、「拉致・監禁」と

本人がどのような心境で入信し、また活動に励んで来たのか、そして説得中の心境や統一協会を去ることになったきっかけなど、実体験を読むことで、原理思考や説得の様子が分かります。このブックレットのIIIにも脱会者二人の手記が載っておりますので、参考にしたいと思います。

また実際に救出経験を持つ親の体験を聞くことができるなら、本人への細かな対応について学ぶことができます。

④ 文鮮明の虚像、統一協会の実態の理解と説得

これについてはIで問題の所在を明らかにしました。またマスコミで騒がれて随分明らかになっていきますし、市販の書籍も、最近はたくさん出版されています。近ごろは何冊も読まれた上で相談に来られる家族も多くなりました。靈感商法に、偽募金、街頭アンケートなど、誰でも知っています。それで、これだけ騒がれ、社会問題の団体であるから、本人に言い聞かせれば分かるはずだという気になります。家族は、本人に分かってもらおうと本を送り、これだけ問題なんだ

解説

勧誘の入口

最初はキリスト教的なビデオを見せ
次いで原理ビデオ13巻を見せます。

1泊2日、または2泊3日の集中研
修会。

集中研修後の原理のくり返し教育。
この期間中に統一協会であること、
教祖が文鮮明であることを明かしま
す。

3泊4日の集中研修会

集中研修後の原理の繰り返し教育。
伝道実践（アンケート、勧誘活動）
や珍味売りなどの実践も始めます。

会社を退職しホームへ入居、通常ア
ルバイトをしながら伝道活動をし
ます。フリーとはホーム生活に慣れて
本部教会員になるまでの準備期間で
す。

1週間の集中研修、原理の繰り返し
教育の仕上げです。

統一教会本部会員となり献身

印鑑売り、その他、経済活動の訓練
を受けます。

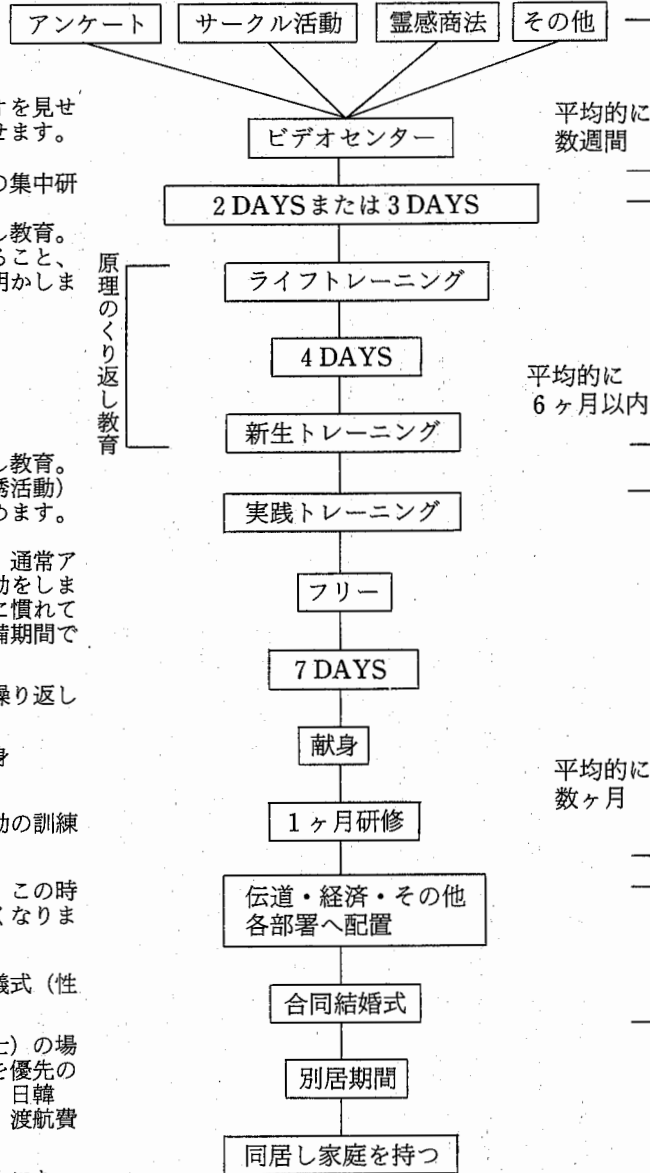
配置転換が頻繁にあるため、この時
期から行方不明になりやすくなり
ます。

一定の聖別期間があり三日儀式（性
行為）が行われる。

カップルが日日（日本人同士）の場
合は合同結婚後も経済活動を優先の
ため、別居生活を続けるが、日韓
（相手が韓国人）の場合は、渡航費
用が出来次第同居します。

日日の場合、女性が33才以上になっ
たら同居させる。

勧誘から入信後までの過程



平均的に
数週間

平均的に
6ヶ月以内

平均的に
数ヶ月

原理のくり返し教育

家族の対処方

← 本人はまだ通っているところが統一協会だと
は知らない。家族はもしおかしいと気付いたら
この本のIとIIIを本人に読ませて下さい。
(注1)

← この時期に入ると色々な兆候が現れます。帰
りが遅い、職をやめるなど。しかしすでにコ
ントロールが始まっているので、話し合いに
ならない場合がほとんどです。最寄りのキリ
スト教会へご相談下さい。しかし免疫（家族
・牧師対策）を既に教え込まれていますので、
細心の注意が必要です（ハ-④参照）。

← この時期にすればコントロールは完全に出来
上がっています。家族がいくら話しても聞く
耳は持たず、逆効果となって本人の行方さえ
分からなくなります。救出には説得が必要で
す。

← 合同結婚式後であっても説得は可能です。実
に合同結婚式を挙げたカップルの半数以上は
壊れているといわれます。

← この段階になると説得は困難です。すでに子
供があり、この道を行くしかない状態になっ
ています。しかし統一教会を離れて帰ってき
ても、いつでも家族は暖かく迎える用意をし
ておきたいと思います。

活動歴の長さ
と家族の対応

（注1）この時期に家族が発見できると、本人が深入りする
ことを未然に防ぐことができるのですが、本人もそれが統一
協会に関係したグループであり、施設であることを知らされ
ていないのです。家族がそこへ問い合わせても、知らないふ
りが通っています。入学・就職の時期には、家族が不審を感じて本
人が通っているグループや団体が統一協会に関係あるかどうか
調べてほしいという電話がよく掛かって来ます。不審を感じ
たならば是非近くのキリスト教会へ問い合わせて見て下さい。

一方的に決めつけ、内部の信者をこわがらせています。前節でも説明したように、家族が本人と話し合う自由な場を統一協会が取り上げてしまっているのが問題なのです。今から八年ほど前は、状況はもう少し違っていました。家族に対してしつかりと証しをしてから、献身するように指導していました。

本人と自由に話す場、それはホテルでも、アパートでも、民宿でも、知人の家でも、コントロールが防げる場であれば、よろしいでしょう。

説得時期は、ここに書かれているような基本的な準備をしてからスタートして欲しいものです。十分な準備を怠って説得に入りますと、統一協会信者としての本人の心情を汲み取ることができず、説得後も家族と本人の間にしこりを残してしまうこともあります。そして説得に要する期間は約一ヶ月が平均的です。数日で理解する方もいますが、何ヶ月もかかる方もいます。長くかかる場合は、特に心情が統一協会に強く引かれていくケースであり、家族が再出発するために、愛(情)の綱引きがとても大切になります。

て取り組めるように家族は見守って行かねばなりません。脱会以後も、本人の心には揺れがあります。寝て起きてみると自宅だった、はっ、とする夢を見る人がいます。寝ている間に、しきりに珍味を売ったり、激しい活動をしている夢を見て、起きてみると自宅であり、ほっとする訳です。統一協会は、脱会した直後に本人に接触し、もし心に揺れがあれば、もう一度、コントロールを効かそうと致します。それには本人の上司や、霊の親(入信させた人)などがあたります。それゆえ脱会した後もしばらくは統一協会のコントロールから本人を守り、心の整理を充分にして頂く期間が必要です。大体、脱会に要した期間と同じほどかかるといわれています。二週間脱会に要すれば、このフォローアップにかかる期間は二週間、もし一ヶ月であれば、同じく一ヶ月程です。社会復帰については、その後ゆっくりと考えてゆけば良いでしょう。説得の準備も、本人を思う愛から発したのですから、あせらずに本人の心を大切にして社会復帰できるように援助しなければなりません。

一〇 活動歴の長さと言

「私の息子(娘)は、もう七年(八年、九年……)やっていますけど、それでも助かるでしょうか」と、最初にお聞きになる方がいます。実際のところ、何年活動したかは問題ではありません。合同結婚式を終えたとしても同じです。ただ二人が同居しており、さらにその間に子供まである場合には、子供のためにどうすれば良いかを考える必要があるでしょう。

勧誘を受けた初期から献身後に至るまでの期間で、家族はどのように行動したら良いかを、フロッチャート形式で図解しておきました。

一一 脱会後の家族と注意事項

脱会以後、本人の荷物を統一協会から引き上げることや、被害にあった、あるいは被害にあわせた処置など、様々なことがあります。これも本人が責任を持つ

一二 最後に、ご家族にお願い

本人は脱会し、家族はひと安心して家に帰りましょう。それから何年かが過ぎた頃、親戚の方が大慌てでこの家族に電話してきました。自分たちの子供が入ってしまったという電話でした。実は、大慌てで電話して来たこのご親戚も何年か前の説得の時には、同席していたのです。救出が終わったから安心かといえ、そうではないのです。統一協会は名前を変え、手段を変えて、近づいて来ます。知らず知らずのうちに取囲んで行くのが彼らの常套手段です。マスコミで騒がれていても、それが統一協会とは分らない方法で近づいて来ますから、私たちの貴重な体験を、統一協会による新たな犠牲者を造らないためにも生かして行ってほしいと思います。このブックレットのIとIIIは、予防の目的のためにも用いられるよう願っています。

は禁じられることになる)。

「素晴らしい内容があるんです」。そう言うとな彼女は、《総序》というラベルの付いたビデオを見せてくれました。ヘッドホンをして画面を見ていましたが、隣の部屋が騒々しいようなので、そっとヘッドホンをはずすと「ソレソーレ！」と、右翼のような勢いで歌を歌っています。伝道の出発決断式であることを後に知るわけですが、「と、とんでもない所に来ちゃった」というのがその時の気持ちでした。ビデオ講義の内容には惹かれるものがあつたので「距離を置いて係ればいい」と思ってビデオだけは最後まで見ることにしました。

―入信・ホーム生活―

しかし、三日間の研修会に参加する頃になると、教会側(統一協会)の情報こそが真実であるという思い込みが始まり、七日間の研修会後、クラスメイトの反対を押し切つて共同生活を始めるようになりました。

大学の授業が終わると、すぐに駅前に行つてアンケート伝道をし、真夜中にホーム(共同生活をする寮)

ていたことが暴露されてしまいました。各教室を回つて立候補の挨拶をするのですが、「原理帰れ！」と、丸めた紙くずを投げ付けられたり、敵しい選挙戦でした。「この戦いに勝てば、大学内の共産主義勢力は崩壊するんだ！」と信じていましたが、開票結果は問題にならない大差をつけられての敗北でした。

原理研究会での生活は、毎日が戦場で戦う兵士のような日々でした。朝は反共ピラをバッグに詰めて各教室に配り、昼は人の行き交う広場で原理講義やパフォーマンスをし、夜は下宿訪問。夏休みや春休みはキラバン隊での経済活動と、五年間はあつという間に過ぎて行きました。

―家族の反対―

卒業が近づくとつれて、家族の反対も激しくなり、二月の卒業論文発表の日には研究室で待ち伏せていた家族と親戚に取り囲まれてしまいました。「もう、ここに来る必要はないから荷物をまとめなさい」と母が言います。突然のことで返す言葉もありませんでしたが、心の中は怒りで一杯でした。

に帰り、食事をとつて反省会。反省会は三時、四時までに及ぶことがあり、外では小鳥がさえずり始めます。

共同生活を始めて一ヶ月後、初めて《展示会》(いわゆる靈感商法)にお客様を動員しました。その人は会社の人間関係で悩んでいる人でしたが、七〇万円の大理石壺を購入しました。「これで救われるんですね?」と言う彼に「ええ」と答えながらも、私の気持ちは複雑でした。なぜなら、それが本当の救いではないし、聖書では禁じられていることだったからです。しかし、そんなことを考えることは不信仰だと思ひ、翌日集金に行きました。

―原理研究会に移る、自治会長へ立候補―

約六ヶ月後、《原理研究会》という学生組織への人事を志願し、大学内での反共活動に明け暮れることとなります。私が初めにしたことは、共産党系の大学自治会を変えるため、自治会委員長選挙に立候補者として立つことでした。一般学生を装つての立候補でしたが選挙活動の初日から、私が駅前アンケートを取つ

その日は夕方からビデオセンターで、新しいメンバーのためのパーティーで司会をする予定でしたが、相手は話しを聞いてくれそうにありません。しぶしぶ研究室の荷物をまとめると、用意されていた車に乗り込み、そのままホームへ向かいました。

ホームのメンバーは、雰囲気ですれとなく私の身を起こっていることを悟り、すぐに支部長を呼びに行つてくれました。私は家族に「荷物をまとめて来るから、ここで待って」と言つてホームの中に入りました。もちろん私としてはホームから出て行くつもりなどありませんでしたので、服と必要な本だけをダンボール箱に詰め込んだだけでしたが、そうしている間にビデオセンターから支部長が駆けつけて来て「大丈夫?」と声をかけてくれました。

「大丈夫です。きつと帰って来ます」と私が答えると、「ちよつとお祈りしよう」と支部長。ホーム中が緊張した雰囲気になりました。

『もう二度とホームに帰ることはないのだろうか? いや、絶対に帰つて来る』。車に乗り込みホームを後

にした私の心は揺れていました。

車は夜遅く家につき、その日は皆疲れていたので寝ることにしました。次の日は朝から祖父や父と話し合いをしましたが、「しばらく一緒に生活すれば家の状態がどれだけ大変なのかわかるさ」とか、「おまえの考えていることは普通じゃない」と、全く一方的に叱り付けるような家族の態度に、『普通じゃないのはそつちだ！神様のことを求めようとしてもしないで！こうなつたら、絶対に逃げてやるぞ！』と、心の中で叫んでいました。

家族を安心させるために、私はまず家の仕事を手伝うことにしました。思ったとおり、家族は安心し始め、「おまえが帰って来たんで良かった」などと話しかけて来ました。

三日目には、「ちよつと本を買って来たいんだけど町まで乗せて」と、母に頼んで町まで連れて行ってもらい、母が買い物に行っているすきに、私は本屋を飛び出すと、全力で近くの電話ボックスへ駆け込み、支部長の所へ電話を入れました。

小学校までの三〇〇メートルほどの田んぼ道を走って行くと、約束通りに車がありました。「よかった！さあ乗って」。支部長に迎えられ、私は車に乗り込みました。

ホームに着くと、既に家族からの電話が入っていましたが、すぐに連絡すれば家族が連れ戻しに来ないとも限りませんので、暫く様子を見ることにしました。

三日後家に電話をすると母が出て、「悪いことをしたね」と言いました。私は、家族が反省していることを感じ、少し安心して「今度こっちにも来てよ。六月には免許証の書き換えもあることだし、また帰るかもしれないから」、そう言いながら、親というものは、やはり子供のことが心配なのだと思えて感じさせられました。

―支部長代行となる―

大学を卒業した私は、支部長の代行として寮のメンバーに説教をしたり、伝道や学内摂理（ビラ配り、新聞配り、立て看板作成、教授渉外）の指示をしたりしていました。しかし、どんなに信仰をもって活動して

「支部長、ボクです。あしたの五時に、近くの小学校まで迎えに来てもらえませんか？大丈夫ですか。それじゃ車で来る道順は・・・」と、説明した後、再び全力で本屋に戻ると、何事もなかったように、迎えにきてくれた母の運転する車に乗り込み、家に帰りました。

次の日は朝から時計が気になってしかたがありました。時計を見るたび、『支部長は来てくれるかな？』と思いつながら『五時』を指すのを待ちました。その反面、何も知らない家族がかわいそうにも思えました。『ここは人情に負けてはいけません！神の情に立つて行動しなければ』と自分に言い聞かせました。

何も告げずに消えてしまったら、家族に捜索願いを出される可能性があると思います、私は短い書き置きをして家を出ました。時々、後を振り返りながら『思い知るがいい』という気持ちと、『ごめんさいね。今は分かってもらえないけど、いつか分かる時が来るから・・・』という気持ちが頭の中で絡み合っています。

も実績はそれほど上がりません。左翼学生に殴られ、罵られて寮に帰って来るメンバーの心は荒んでいきます。そんなメンバーに対して次の日も指示をしなければなりません。

活動できるメンバーが活動できない弱いメンバーを批判したり、やるせない思いを発散するために寮の中の『いじめ』が起り、結果的には一人のメンバーが自分から去って行ってしまいました。『神様！どうしてですか？』と祈らずにはいられません。気が付くと、私自身もメンバーに対して厳しい口調で話していました。

ある日の真夜中、私は一人台所に行くと、包丁を取り出し、それを自分の腹に押し当て『自分は本当に神様の為、先生の為に死ぬるのか？』と、問い詰めました。そして「こんな弱い私で申しわけありません」と泣いて祈りました。

家から逃走してから約半年後、私は再び帰って見ました。もちろん目的があつたことで、ヨーロッパで開催される学生大会の旅費を工面してもらうためです。

た。

―救出―

家に着いた次の日の朝、「実は、急に叔母さんが入院しちゃったんで、おまえにも病院に行ってもらいたいんだけど」と、母が言い出したので、「いいよ」と返事をしました。暫くすると親戚の人達が来たので、一緒に出発しました。東京方面かと思っていました。が、車は違う所へ向かっているようです。午後一時を少し回って、車は山荘のような建物に着きました。二階に上って昼食を済ませ、横になっていました。下から誰かが階段を上って来るようです。

「よお。暫く」。

―家族の説得が始まる―

私は目を疑いました。なぜなら、そこには米国へ行っているはずの叔父が立っていたからでした。統一協会に入っていることを叔父にだけは知られてはならないと思っていた私は『しまった』と、心の中で言いました。統一協会員にとって最大の危機を迎えようとしているのです。横になっていた家族たちが座り直

し、私も体を起しました。

次に口を開いたのは父でした。「おまえも分かっていると思うが、今日ここに来たのは大切な話し合いをするためなんだ」。部屋の空気までがピリピリして来たように感じました。『だまされたんだ!』。

叔父さんが米国統一協会の実態や教義の間違いなどを話してくれましたが、私の頭には入りません。私はただ、『どうやってここから逃げようか』ということしか考えていませんでした。

一度、家から逃げたことのある私は、わざと悩むふりをすることにしました。額にしわを寄せて、「もし、この原理が間違いだとなると、ボクは敗北者になってしまうのかなあ」。すると、すかさずクリスチャンの叔父が「そんなことはないよ。勝ち負けを決めるんじゃないくて、真理は人に自由を得させてくれるものなんだ。どうだろう、広い目で見てみるために、叔父さんの知り合いの人に会ってみないか」と言ってくれました。

《知り合いの人》と聞いて、「ついに反対牧師登場

か?」と思いながら、「いいよ。会ってみる」と、私は答えました。

―牧師の説得が始まる―

次の日、一人の牧師さんが部屋に入ってきました。『来たな。サタンの手先。こっちは真理を知ってるんだ。絶対に負けないぞ』。そう決意して、私は今思うと傲慢だったと反省していますが、牧師さんに対して言いました。

「帰って下さい。私のような者と話しをするより、まだ信仰の浅い人を相手にした方があなたの時間を無駄にしませんよ」。すると、叔父が「きのう会ってくれると言ったのに、そんな言い方はないだろう」と言われて、返す言葉もなく、話しを聞くことにしました。牧師さんの自己紹介の後、「じゃあ、聖書を開いてくれるかな? ルカの福音書一五章一節。よく知られている放蕩息子の子の出でるところだね」。

それは聖書の中で私が好きな箇所です。よく和動会(交流会)で劇をする時に用いた箇所でもありました。家を出た息子が、好き勝手な生活をした揚げ句、生活

に困り、我に返って父のもとへ帰ると、待っていた父が「この息子が死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだ」と言って息子のことを受け入れるのです。その箇所を家族と一緒に読みながら、私は『そんな話しは知ってるよ。牧師さんこそ、こうして統一協会員の信仰をおかしくしている姿を見て、神様の悲しみになっていることを知るべきだ』と思いつつ、牧師さんの聖書を読む顔を見つめていました。

ルカの福音書一五章の終わりまで読み終えると、「もし、この原理講論が真理だとすると、牧師や神学者が必死に研究しているはずだよね?」と牧師さんが尋ねてきたので、私は『当然です』と思いつつ、うなずきました。

「それじゃ、さっそく本論に入ろう」。机の上には聖書と原理講論が用意されました。それを見ながら、私は『ついに来るべき時が来たのだ』と、覚悟を決めました。ところが、話しが進めば進むほど、私の絶対的真理であるはずの原理講論と、神の言葉である聖書

との溝は、深まる一方で、なんだか情けなくなつてしましました。

初めは、聞くふりをして話しが終わるのを待つつもりでしたが、『明日、牧師さんが来た時は逆に質問をして困らせてやるぞ』と作戦を変えることにしました。

次の日は、牧師さんが来ると、聖書について疑問に思う点をいくつか質問しました。しかし、それは疑問でもなんでもなくて、実は聖書をよく読めば分かることであることを、逆に気付かされてしまいました。その日は、統一協会に対して出版された本や資料を置いていってくれました。『こんな本、いくらでも読んでやる』と思って、脱会者の証言などを読み始めました。

脱会者の女性の証言を読みながら「今は、とつても幸福に暮らしています」という文章が私の目に止まりました。『非原理（統一協会の外の世界）で暮らしているくせに《幸福》なんてことが本当にあるんだろっか?』。

かが（それは本来の私自身の人格といえるかもしれない）目覚めたような感覚でした。

『ガッシャ』という音がして、私の心の中の何かが壊れました。それは五年間を支配していた別の人格といますか、真の父母という心の中の偶像であったと思います。

—自問自答の中で—

私は、自分の心の中を整理し始めました。

『今、おまえは何をしている』。私は家族と一緒に聖書を勉強しています。『聖書は神の言葉か?』。私はそう信じます。『それでは、これ（家族による保護）はサタンの仕業ではないではないか?』。確かにそうだ、サタンではない。『私はどこへ帰ればいい』。少なくとも統一協会へ帰る必要はないようです。

そんな自問自答をしているうちに、今までそれほど会いたくなかった牧師さんに、早く会いたいと思うようになりまし。その夜は初めて心を開いて牧師さんの話しを聞くことができました。靴下の中に忍ばせておいた十円玉と一万円札を取り出すと、私は自分のし

次の日も昼寝をしながら、本を読んでいた。いわゆる《三日儀式》のことについて書いてありまし

た。原理では、人間は自由意志で墮落したのだから、復帰（救い）の道は自己否定の道であると教えています。ですから、夫婦の性生活も、非原理のものとは異なつてくるのは当然であると考えていた私は、本を読みながら、『まったく、本質を知らない人がこういう本を書くんだよね』と、逆に将来の自分が合同結婚式で相手者（結婚相手）と結ばれて三日儀式を迎える時を想像してみました。

—心に変化が—

『なになに、男が女の頭に手を置いて・・・男が下、女が上で・・・』。そんな時でした。私は何だか背筋がぞつとして来ました。『待つてくれ!それは神様が決めたことなのか?私はロボットじゃないんだぞ!どうして夫婦生活まで規格化されてしまうんだ。誰か答えてくれ!』。私の心の中に、変化が起り始めていました。五年という長い年月を眠り続けていた何

ていたことが、滑稽に思えて吹き出しそうになりました。十円玉はホームへ電話を入れるため、一万円は逃走資金として、ここに来た日から、靴下の中に隠していたものだったからです。

夕食の時に、家族に「実は、ここに来た日から、ずっと逃げ出すことばかり考えていた」と告白し、気が楽になりました。

—脱会者と会う—

次の日は、牧師さんの他に三人の脱会した女性が来てくれました（そのうちの一人が今の家内です）。一人一人の脱会者の誠実さを感じ、私は更に安心できました。

『やめても悲惨じゃないんだ!』と。

「日曜日には教会に来てください」と牧師さんに誘われて、私はうれしくなりました。『明日は教会に行く!本当の神様の教会へゆけるんだ!』と、心の中は喜びで一杯です。一二時に目がさめ、三時に目がさめ、五時に目がさめ、興奮して眠れませんでした。

一〇時半ぐらいから礼拝が始まりましたが、とにか

く私は感動してしまつて涙が止まりませんでした。

『この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなつていたのが見つかったのだ』。教会で歌う讚美歌の中に神様の愛を感じ、放蕩息子であつたことに今気付いた私に対する語りかけとして、ルカの福音書の言葉が迫つて来ます。その夜は、教会の空いている部屋に泊めてもらいましたが、久しぶりにぐつすり眠ることができました。

—心の安らぎを得て—

思えばこの五年間というものの、本当の安らぎといえるものはなかつたと思います。くる日もくる日も、実績追求の厳しい中で、いつ終わるとも知れない戦いをしている毎日でした。今のこの安らぎこそ、自分が統一協会に入る時に求めていたものでした。皮肉にも、求めていたものは統一協をやめてから得られたのでした。

—苦労を共にした仲間たちへ—

脱会から一ヶ月が過ぎ、本物のキリスト教の信仰の素晴らしさが分かるにつれて、気になるのは、苦労を

共にして来た仲間たちのことです。

『彼らを救い出さなければ』。

私は彼らの家族と連絡を取り、一人一人と会つて話しをしました。

私 「僕が、なんでやめたのか分かる?」。

兄弟 「いいえ、分かりません」。

私 「アダム・エバ(男女間の問題)でかな?」。

兄弟 「そんなことは考えられません」。

私 「カイン・アベル(上司との人間関係)かな?」。

兄弟 「それも考えられない」。

私 「じゃあ、僕の話聞いてよ」。

こんな具合に私たちの対話は始まつて行きましたが、二年間のうちに牧師さんとの協力によって、六名の会員が救出されました(私たちの脱会を見て自分から抜けた人も数名いました)。

人生には楽しいことばかりでなく、辛いことや悲しいこともあります。その現実を受け入れられないで、私は完全な世界が実現することを統一協会に期待して

いたようです。また、個人的にも、自分の弱さや醜さが、祝福(合同結婚式)を受けた後に無くなって、罪の無い体になれると思つていました。でも、今は、それらが妄想に過ぎないことが分かりました。

クリスチャンになつて一番素晴らしいと思つたことは、『私であること』を喜べるようになったことです。

『私は私らしく生きる』というのを忘れずに歩んで行きたいと思ひます。

「苦しみに会つたことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」(詩篇一一九・七一)。

(注二) 脱会者の手記の本文に「洗脳」という言葉が用いられておりますが、これ以外ではコントロールという用語を用いています。統一協会は「洗脳」するのではなく、幾つかの手法を用いて心をコントロールしているものであり、「洗脳」という言葉は当てはまりません。脱会者本人の言葉にもありますが、勧誘された時、それとは「かけ離れた感じ」であつて、そのまま

ずるずると入つてしまつた人がほとんどです。ですから、統一協会の勧誘に対する予防のためには、コントロールについて理解しておくことが必要です。

二 S子さんの手記より

彼女は、短大生の時に街頭アンケートで勧誘され、統一協会へ入信しました。そして靈感商法に携わる中で、幾たびかの悲劇を体験しましたが、両親の熱心な説得が彼女の心を動かして脱会になりました。

―入信。修練会では精神的におかしくなる人も―
私は昭和五九年当時、K短大の保育科一年生でした。静岡駅の地下道を歩いていたら、当時二〇才だったHさんにアンケートをとられ、市内のビデオセンターを紹介されました。

その後、週に二、三回のペースで同センターに通うようになり、同年二月二〇日頃から静岡市内のマンションにて二日修練会に参加、翌年一月一三日頃から、名古屋市内の守山修練所において四日間修練会に

参加しました。

翌日から新生トレーニングに二度参加、同年四月に統一協会学生部に入教すると共に市内のホームで生活するようになりました。

このころから私は静岡市内での街頭アンケートに参加するようになりました。同じ学校の友人も何名か会員になりましたが、私にとって大切な友人一人が四日修練会に参加後、精神的におかしくなり、精神病院に入ってしまうような事もありました（入会して脱会するまでに、精神的におかしくなった人を私は何人も見ました）。

―それがもし私であつたなら―

同年七、八月の夏休みを利用して、『学生機動隊』として、中部地区の学生が集まって飛騨高山で募金活動を行いました。この募金活動は、『勝共カンパ』と称し、チームのメンバーが各自民家に戸別訪問して募金を集めて来る、という活動でした。

夏の日差しの中、数百円のみを渡され、缶ジュースの一本も買えず、山の水を飲んだり、犬に追いか

けられ怪我をしたり、訪問先で怒鳴られるなど、辛い思いをしました。

また募金活動中には交通事故がありました。ワゴン車の運転手が居眠りをして車が転倒し、一人の女性が死亡しました（車内にいたのは彼女と運転手だけでした）。

その女性はAさん（当時二〇才くらい）といって静岡市出身で、名前を変えて名古屋市千種区のホームで食事当番として働いていた人でした。その事故のあった時、何も知らずにいた私が、ホームにいる班長に電話をすると、「軽い事故があつたので戻って来てください」と言われました。おそらくその時にはAさんは亡くなっていたのだと思います。

その後、中部ブロック長と学生部長が私たちにこう話したのを覚えています。「Aさんは車が転倒したとき、窓からスルリと落ち、車と岩の間に挟まれ、胸部圧迫のため、傷ひとつなく、苦しむことなく死んでゆかれました」。またその理由として、「今まで、全国でお父様を守る一週間の条件祈禱がなされていました

が、今日はその最終日です。おそらくAさんが最も強く、お父様のために犠牲になりたいと祈られていたのではないか。Aさんは供え物になって殉教されたのです」と言っていました。

しかし、その一週間、そんな条件祈禱が全国的になされていたとは、私たちは全く聞かされていませんでした。もし車内に残っていたのがAさんでなく、私であつたとしたならば……と考えると、背筋の寒くなる思いがします。

そしてこの翌日、名古屋市千種区のホームに戻り、勝共カンパではなく『IRFF（難民救済のための募金）』と称して名古屋市の民家に戸別訪問して募金を集めるという活動をしました。

同年一二月には冬休みを利用して『めぐまれない子供たちの為に』と書いた箱をもって、昼間から夜中まで募金活動をしました。夜、居酒屋の多いところは高額の募金が集められたのを覚えています。

―社会人になつても、つらい日々―

さて昭和六一年三月、短大生活が終わって、浜松市

内の保育園に就職が決まり、浜松市内のホームにて生活するようになりました。また、この頃から親との間に亀裂が生じるようになりました。親には合宿と偽って、実践トレーニングに参加したい、と話をもちだすと、統一協会の実態を語っていた親は激しく反対し、口論となり、激しい暴力をふるわれました。

翌日は家出をしましたが、家での様子を団長さんに報告すると、団長はバカにしたように大笑いし、Sさんの親は自己中心的で、こんなことをするんだ、とカルチャーセンターのスタッフルームで、大声で皆に話しました。この時、家庭の恥を暴露されたようで、大変な屈辱を感じたことを覚えています。

さて、実践トレーニングの四ヶ月間、職場と統一協会との活動との両立はかなり難しいものでした。保育園の新入り職員であった私は、教育の指導者としての立場に立たなければならぬのに、睡眠時間四時間、かつ、街頭アンケート、電話動員、皆が寝静まってから保育日誌の記録など、肉体的にも精神的にも疲れ果てて仕事どころではありませんでした。もともと体も

弱かったので、仕事で居眠りすることも多く、保育に失敗し、上司や先輩から注意されるばかりで、また統一協会でも活動の実績を追及されるなど精神的な負担が重くなりました。

そして同年六月一六日、通勤途中で、居眠り運転のため衝突事故を起こしました。それを協会の実践部長に報告すると、すぐにでも職場を辞めるように命じられ、即日退職届けを出し、一週間以内に退職しました。同年八月より私は通教青年部へと移されました。

仕事は建設会社の事務でしたので、統一協会の活動との両立における負担はそれほどありませんでした。

― 霊感商法に携わって、その悲劇 ―

しかし、ここでまた問題が起こりました。この頃、印鑑や壺、念珠、一和人参茶などの販売の動員が叫ばれ、多くの人に被害を与えましたが、私が買わせてしまった内の二名の方について記します。

一人はM子さん(当時二七才)、この方は街頭アンケートで出会った人で、その後印鑑を買い、壺を買われるためのトークを受けました。しかし、家系図ト

ークを受けると恐怖感のあまり家に帰って自殺未遂をし、婚約も解消してしまいました。そして霊感商法でマスコミが騒ぎ出すと、「信用していたのに裏切った」と私に恨みをもつようになり、何度も電話をかけてきては「お金を返さなければ信用しない、親を出せ」と脅迫じみたことを言うようになりました。

困った私は青年部長に相談すると、団長より、「これは賠償金として個人的に支払ってください」という指示があり、一〇万円をM子さんに支払いました。

統一協会は、どんな問題も個人個人に責任をもたせ、協会の評判をおとすようなことには全くタッチしていないように思わせるのだ、ということをおのとき身にしみて感じました。

もう一人はTさん(当時二八才)。この方は会社の先輩で、印鑑を買い、家系図トークを受けましたが、この過程で、統一協会のトークカーに、顧客を愛するよう指示を受けていた私は、この男性に距離をおきながら尽くすようにしました。

― 職場を転々と ―

しかし勘違いした彼は私に好意をもち、職場で二人きりの時などに言い寄られるようになりました。このことをまた部長に報告すると、分別する(情を断ち切る)こと)ように言われ、彼を避けるような行動をとりました。やがて霊感商法の内容を知ったその先輩は冷たい態度を取るようになり、二年後には暴力をふるうまでになりました。耐えられなくなった私は、ここも退職することになりました。

さて、この職場にいた時には、「ハーモニー」と称する統一協会のサークル活動に参加し、ボランティアの人形劇『ラッフル』や『ミラクルタウン』という情報誌の責任者を任せられました。ボランティアでは、缶ジュースの空き缶を利用して募金箱とし、民家や店舗に設置し、回収するなどして募金を集めました。情報誌作成にあたっては資金源のための広告募集に歩きまわりました。

しかし、平成元年二月より転職をすると、サークル活動が低迷していたり、家庭からの反対がよりいっそう激しくなっていたこともあり、礼拝に参加するだけ

の日々が続きました。そういう中で職場に楽しみを見いだし、統一協会の活動よりも仕事を優先するようになりました。そしてその職場で社内の人とお互いに好意をもつようになりました。それを青年部の部長に報告すると、仕事を辞めるように指示を受け、半年働いた職場を退職してしまいました。

—両親の熱心な説得によつて—

そしてまた転職をしたのですが、次の職場に在職中、平成二年四月に両親により保護され、その後の一日間、父母たちや牧師さんの真剣な説得活動により、ようやく統一協会より脱会する決意を固めました。その職場は保護された翌日付けで解雇処分となりました。

いま考えますと、今までの職場の退職の原因にはすべて統一協会が絡んでいますし、両親が統一協会の実態をしつてからの五年間は、親子関係はまったく悪く、両親は眠れない日々が続き、父は精神的な重圧によつて仕事中に倒れたりするなど、家族を犠牲にしていました。

附 統一協会についての基本的姿勢

日本福音ルーテル教会 信仰と職制委員会

一、世界基督教統一神霊協会、いわゆる統一協会がキリスト教会の教えとは違うことは、それが基としている『原理講論』の考えをみれば明らかです。特にここではキリストを救いの完成者として考えず、文鮮明が再臨のメシヤであるとしています。

また『統一神学』は聖書やキリスト教の神学者たちの議論を引いたりしていますが、その教えは聖書以外のものを基本にして、それを都合のよいように、断片的に接ぎ合わせたもので、伝統的なキリスト教会の教えとは全く異なります。しかも協会の内部では『原理講論』が専ら基本で、『統一神学』などというのはキリスト教的な装いの手段ではないかと思えます。アメリカでも日本でもキリスト教協議会に加入しようとする努力した時がありますが、いずれも断られてしまいました。

また、私自身も、因縁や霊界の恐ろしさに縛られ、この五年間、「夢だったらいいい、夢だったらいいい」と、呼吸することさえも苦しい日々が続き、毎日が呪われているようで、死んだ方がましだと思ふときも幾度かありました。またほとんどの友人が私に偏見をもち、避けるようになっていました。

脱会して何年かたちましたが、だまされ続けた五年半、返していただけるなら返して欲しいと思う毎日です。

二、もちろん信仰はそれぞれの人によつて保たれるもので、他の人がとやかく言うべきではありません。しかし信仰はその人々の自由でも、それによつて他の人々と共通の正しさを見ず、また自分たちの信仰のために会員を、そして他者を、あくどく利用するような行為が信仰によつて生じるなら、その信仰自体が問題であります。

三、どのような信仰にせよ熱心な信仰はそれまでの宗教的な考えを批判し、社会の在り方そのものへの批判となることがあります。しかし、その批判が社会生活を壊したり、他者の基本的な権利を奪うようなことになつてはなりません。

四、自分の信仰の決定は自分自身にあります。その人が信仰する相手である神さまからの強い働きかけを感じることは当然起ることですが、それが他の人の外的な強制や心理的な操作によるものであつてはなりません。しかも宗教以外の装いをして、騙して勧誘すると

日本福音ルーテル教会の
原理運動被害者救済問合せ先

北海道	北海道釧路市若竹町5-12	日本福音ルーテル釧路教会	☎ (0154) 22-1024
東	神奈川県横須賀市三春町3-20	日本福音ルーテル横須賀教会	☎ (0468) 23-3852
東海	静岡県焼津市栄町5-16-27	日本福音ルーテル焼津教会	☎ (054) 628-6762
西	広島県福山市御門町3-2-4	日本福音ルーテル福山教会	☎ (0849) 22-1834
九州	福岡県福岡市博多区須崎町3-9	九州教区事務所	☎ (092) 281-4204

ルーテル・ブックレット①

統一協会のコントロールからの解放

——救出の手引き——

1993年7月1日初版発行

著者 斎藤幸二・平岡正幸

発行者 ルーテル・ブックレット・プレス

代表 徳善義和

発行所 162 東京都新宿区市谷砂土原町1-1

ルーテル市ヶ谷センター内

ISBN 4-947672-01-3

定価 500円 (本体486円)

いうことは、真実を重んじるはずの団体としてあるまじきことです。都合のよい時は宗教団体と称しながら、さまざまな偽りの看板を掲げたり、いつの間にかその会員を政治的あるいは経済的な運動に組み込み、ついには全く違う教えの宗教団体をもつくり出すようなことをするのは、一般の人々に対しても会員に対しても不誠実です。

五、彼らが聖書を用いたり、キリスト教的な考えをある意味で援用したりするので、キリスト教の牧師がその誤りを正そうとする機会が多くなっています。しかし問題は宗教対宗教の争いではなくて、狂信的な信仰から、自分で客観的に判断出来る立場に立たせるようにすることです。その努力は当該者を社会的な問題行為から解き放つというだけでなく、本人たちの人格的な自立を促すことにあります。それがないと、たとえ何かの理由で脱会したとしても、のちのちまでも本人がその時の影響を引きずって行くこととなります。

六、自分が自立的な判断が出来ないということには、それまで育つて来た環境における問題や、周囲が気付かないでその人を追い込んでいたという状態があるかもしれません。その意味では家族や関わる人々の側での問題も検討、反省して新しい出発をはかることが必要です。

七、仲間の親しい交わりや世界の問題を一貫して説明すること、また自分たちが世の改善のために力を尽くすことの出来る場が提供されること、など実際はそうでなくても、そこに入ろうとする人々には魅力的なものがあります。その会員になろうとする人は、それにひかれた真面目な努力家でもあるのです。それだけに、そのような偽りの手段で、そうした人々を利用しようとする組織に対する正しい批判が求められます。